

**甲南大学
甲南大学大学院**

ホームページ <https://www.konan-u.ac.jp>

◎**岡本キャンパス**

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL (078) 431-4341 (大代表)

◎**西宮キャンパス**

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL (0798) 63-5741

◎**ポートアイランドキャンパス**

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL (078) 303-1457

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL (0797) 31-0551 (代表)
ホームページ <https://www.konan.ed.jp>

甲南大学ネットワークキャンパス東京

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12
サピアタワー10F

TEL (03) 6266-9520

ホームページ <https://www.konan-u.ac.jp/tokyo/>

**ウェブサイトによる
「教育情報」の公開について**

本学では、平成23年4月1日に施行された「学校教育法施行規則等の一部を改正する省令」に伴い、ウェブサイトにて積極的に「教育情報」を公開しています。甲南大学ホームページの「公開情報」をご覧ください。

発行 令和3年6月

この冊子に関するお問い合わせは、
以下までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL (078) 431-4341 (代)

FAX (078) 435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp

KONAN

令和2年度 事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで





学校法人甲南学園
理事長 長坂 悦敬

甲南大学、甲南高等学校・中学校を
設置する甲南学園の歴史は、
大正8(1919)年の旧制甲南中学校の開校に
さかのぼります。

甲南を支える大きな精神的支柱である
創立者の平生鈺三郎は、

本校ハ学校教育ノ現状ニ満足セザル
有志ノ者共ガ集マツテ、
知育偏重ノ弊ヲ避ケ、
「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、
「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、
知的教育ヲ施サン」
トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

高等学校第1回卒業式／大正15(1926)年

と述べています。

本学園は、今後も、この気概と品格ある
建学の精神をもとに、教育・研究の質を高め、
本学園の社会的使命を
達成することを目指しています。

はじめに

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

甲南学園の令和2年度(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言とほぼ同時に幕が開き、パンデミックに対する本学園の対応力が問われる年度となりました。

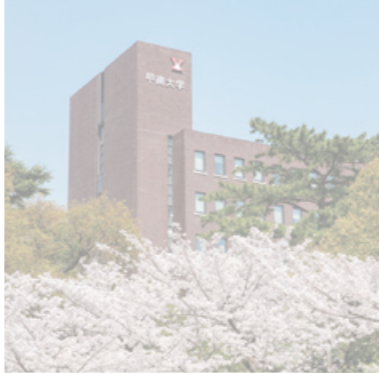
人物教育率先を掲げる甲南学園として、コロナ禍にあっても、一人ひとりの学生・生徒に向き合った教育と支援を提供し、学内で感染を広げず、決して家計の急変によって修学を断念する学生・生徒を出さないために、まさに教職員一丸となって取り組んでまいりました。

また「甲南学園中期計画(2020~2024)」の推進にあたっては、(1)「人物教育率先」の進化、(2)世界に通じる「KONANクオリティ」、(3)地域社会と朗らかに「つながる学園」の3つのスローガンキーワードのもと、組織横断型の委員会・プロジェクト・タスクフォース等の活動によって具体的な取組みが進んでいます。

大学においては中井伊都子学長のもと「KONAN U.VISION2025」が策定され、新しい教学新機軸に基づいた積極的な取組みが推進されようとしているほか、高等学校・中学校においては新たに立ち上げた「甲南高中将来構想委員会」による議論を踏まえ、山内守明校長のもとで2025年を見据えた5カ年行動計画がまとまりつつあります。

これからの「withコロナ」「afterコロナ」においても、甲南学園は、健全な学園ガバナンス体制の構築につとめ、創立者平生鈺三郎の建学理念のもと「人物教育」を力強く進めてまいります。

皆様におかれましては、今後とも甲南学園への格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



甲南学園のあゆみ

個性尊重の理念を掲げて開学。
100年間にわたり、「人物教育」を徹底的に
志向しつづけています。



創立者 平生鈺三郎

平生鈺三郎は、慶応2(1866)年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

- 大正 7(1918) 財団法人甲南学園 私立甲南中学校設立認可
- 大正 8(1919) 私立甲南中学校開校
- 大正12(1923) 7年制甲南高等学校開校
- 昭和23(1948) 新制甲南高等学校に移行
- 昭和26(1951) 甲南大学設置認可、甲南大学開学、文理学部設置
- 昭和27(1952) 経済学部増設
- 昭和32(1957) 文理学部を文学部と理学部に分離
- 昭和35(1960) 法学部・経営学部増設
- 昭和38(1963) 甲南高等学校・中学校が岡本から芦屋市に移転
- 昭和39(1964) 大学院人文科学研究科、自然科学研究科設置
- 昭和40(1965) 大学院社会科学研究所増設
- 平成 3(1991) トゥレーヌ甲南学園(フランス甲南学園トゥレーヌに校名変更) 高等部・中等部を開校
- 平成13(2001) 理学部を理工学部に変更
- 平成14(2002) 経済学部・経営学部EBA総合コースを開設(平成25年廃止)
- 平成15(2003) 先端生命工学研究所(FIBER)設置
- 平成16(2004) 大学院法学研究科(法科大学院)増設
- 平成18(2006) 大学院ビジネス研究科(会計大学院)増設(平成25年会計専門職専攻として社会科学研究所のもとへ移設、平成28年廃止)
- 平成20(2008) 知能情報学部増設
- 平成21(2009) マネジメント創造学部増設(西宮キャンパス新設)先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエンス学部・同研究科増設(ポートアイランドキャンパス新設)フランス甲南学園トゥレーヌ中等部閉校
- 平成25(2013) フランス甲南学園トゥレーヌ高等部閉校

CONTENTS

学校法人甲南学園／令和2年度事業報告書

- はじめに 1
- 甲南学園のあゆみ 2
- 甲南学園の構成 2

Highlight 2020

- 01 「甲南学園中期計画(2020~2024)」の推進 3
- 02 甲南学園創立100周年記念事業 3
- 03 新型コロナウイルス感染症対策 4
- 04 甲南大学の教育改革 5
- 05 甲南高等学校・中学校 6
- 06 戦略事業の展開 6

I 事業の概要

- 大学・大学院 7
- 高等学校・中学校 11
- 法人 12

II 財務の概要

- 令和2年度決算の概要 13
- 資金収支決算の概要
- 資金収支計算書(学園総括)
- 活動区分資金収支計算書(学園総括)
- 繰越支払資金の流れ
- 事業活動収支決算の概要

甲南学園の構成

設置する学校・研究科等(令和3年3月31日現在)

甲南大学・大学院		
学部 学科	文学部 ■ 日本語日本文学科 ■ 英語英米文学科 ■ 社会学科	■ 人間科学科 ■ 歴史文化学科
理工学部	■ 物理学科 ■ 生物学科	■ 機能分子化学科
経済学部	■ 経済学科	
法学部	■ 法学科	
経営学部	■ 経営学科	
知能情報学部	■ 知能情報学科	
マネジメント創造学部	■ マネジメント創造学科	
フロンティアサイエンス学部	■ 生命化学科	
大学院	人文科学研究科 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻	博士後期課程 ■ 日本語日本文学専攻 ■ 英語英米文学専攻 ■ 応用社会学専攻 ■ 人間科学専攻
自然科学研究科	■ 物理学専攻 ■ 化学専攻 ■ 生物学専攻 ■ 知能情報学専攻	■ 物理学専攻 ■ 生命・機能科学専攻 ■ 知能情報学専攻
社会科学研究科	■ 経済学専攻 ■ 経営学専攻	■ 経営学専攻
フロンティアサイエンス研究科	■ 生命化学専攻	■ 生命化学専攻
専門職 大学院	法学研究科	■ 法務専攻(法科大学院)
センター 研究所 図書館	■ 国際言語文化センター ■ 全学教育推進機構 ■ 共通教育センター ■ スポーツ・健康科学教育研究センター ■ 教育学習支援センター ■ リカレント教育センター ■ 国際交流センター ■ 教職教育センター ■ 地域連携センター ■ 公認心理師養成センター ■ フロンティア研究推進機構 ■ カウンセリングセンター	■ 学生相談室 ■ 心理臨床カウンセリングルーム ■ 総合研究所 ■ 人間科学研究所 ■ 先端生命工学研究所 ■ ビジネス・イノベーション研究所 ■ 図書館 ■ キャリアセンター ■ アドミッションセンター
甲南高等学校・中学校		

- 事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)
- 事業活動収支決算の推移(学園総括)
- 平成30年度~令和2年度決算の推移
- 主な施設・設備の整備状況(学園全体)
- 貸借対照表
- 財務状況の推移(学園総括)
- 財務比率の推移(学園総括)

III 法人の概要

- 名称 21
- 法人設立の年月日
- 設置学校
- 役員
- 土地と建物

大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

- 学位授与
- 留学者数
- 入学試験状況
- 大学(学部学生)の就職状況
- 学生・生徒数
- 卒業生累計数
- 専任教職員数
- 事務組織図

01 「甲南学園中期計画(2020～2024)」の推進

▶「甲南学園中期計画(2020～2024)」の推進

本年度より5ヶ年の学園中期計画がスタートし、ビジョンの実現を目指した様々なアクションプランを学園一丸となって推進しました。(以下、4つの法人中期計画の取組み)

- I 「学園運営の一層の健全化」
- II 「安全安心かつ環境にやさしいキャンパス整備」
- III 「財政基盤の強化」
- IV 「社会との結節点としての広報機能の拡充」



▶中期計画リーフレットの作成

中期計画の概要と計画を推進する中で「達成したいこと」と、以下3つのキーワード等をまとめたリーフレットを作成し、学内外に周知しました。

- ・「人物教育率先」の進化
- ・世界に通じる「KONANクオリティ」
- ・地域社会と朗らかに「つながる学園」

▶中期計画推進プロジェクト・タスクフォースの発足

教職員で構成する以下の組織横断的プロジェクトやタスクフォースを発足させ、本学園が抱える諸課題の洗い出しや解決策の立案等に取り組みました。

- ・甲南高中将来構想委員会
高等学校・中学校のさらなる魅力化を推進するため、現状および課題の整理を行い、改善に向けた提言書を作成しました。また、甲南高中将来構想委員会の下に、「中高大接続検討小委員会」を設置し、中高大一貫教育について継続的に議論する体制を整備しました。
- ・地域社会と朗らかに「つながる学園」プロジェクト
甲南学園の社会的評価(レピュテーション)の向上と、学内外の「つながり」を創出と、学内の組織間交流の活発化を目指し、双方向性のある会員制プラットフォーム「KONAN-PLANET」の開設に向けた準備をしました。
- ・KONAN-DXプロジェクト
 - ①電子決裁システムの導入と学園グループウェアワークフロー活用タスクフォース
決裁・回覧文書にかかる実態と市販パッケージシステムの概況を把握し、決裁文書の電子化実現に向けた取組みを開始しました。
 - ②在宅勤務(テレワーク)環境整備タスクフォース
事務職員が有事の際に在宅での勤務を可能とする環境を整備し、併せて「在宅勤務に関する規程」を制定しました。
 - ③オンライン会議システムの導入と会議のICT化活用タスクフォース
「会議運営と会議室に関する調査」を実施して問題点と課題を把握し、会議室整備計画を立案しました。
- ・スポーツ強化支援検討タスクフォース
「KONAN SPORTS VISION」および「スポーツ強化支援基本方針」を策定するとともに、第5期スポーツ強化指定制度案の作成を開始しました。
- ・研究費執行業務効率化タスクフォース
研究費執行業務における現状と課題の整理および改善策を立案しました。

02 甲南学園創立100周年記念事業

平成27年に開始した甲南学園創立100周年記念事業は、令和2年度の『甲南学園の100年』発行と「学園創立100周年記念事業募金」終了をもって完了しました。特に募金対象事業においては多くの皆さまの温かいご支援とご協力により、甲南学園の人物教育のさらなる進化に向けた積極的な取組みを実現することができました。

- (1) 甲南新世紀教育の展開(執行額:約60億円)
新時代の学生福利厚生施設として建設したiCommonsは甲南大学の新たなシンボルとなりました。また、全学共通教育や融合型グローバル教育において教員体制が充実し、甲南大学の教育における大きな特長の一つとなりました。
- (2) 甲南大学白川台キャンパス セミナー・スポーツ施設拡充事業(執行額:約16億円)
神戸市須磨区に整備した甲南大学白川台キャンパスは、セミナー室、体育館、人工芝グラウンド、厩舎/馬場等のほか食堂・宿泊設備を備え、ゼミや課外活動団体による合宿、地域連携イベント等で積極的に活用されています。



iCommons 1階 Agora

- (3) 甲南高等学校・中学校100周年記念グローバル教育推進・教育環境整備事業(執行額:約10億円)
高校の間に3か月～1年の留学を経験するグローバル・スタディ・プログラムや、各界の第一線で活躍する著名人を招聘する「ソフィア講演会」が充実したほか、新たにスポーツ屋内練習場を建設しました。
- (4) “わがくるま 星につなぐ”甲南の星 奨学金給付事業(執行額:約1億円)
大学では自宅通学圏以遠の受験生に対して入学前に奨学金給付を約束する制度や、学術・スポーツ・国際交流等にて顕著な成果を挙げた学生への奨励金制度を、高等学校・中学校では、成績優秀者や留学する生徒に向けた奨学金制度を創設しました。

▶『甲南学園の100年』『平生鈺三郎日記(補巻)』

令和2年10月、甲南学園100年史編纂委員会(委員長:杉村芳美元甲南大学長)による5年間にわたる編纂作業を経て、『甲南学園の100年』が完成。平生鈺三郎による建学の精神が100年一貫して甲南教育を導いてきたことを柱とし、さらに多くの写真や読みやすいコラムにより各時代の雰囲気を感じられるものとなりました。

また、令和2年12月には『平生鈺三郎日記(補巻)』を刊行。全18巻の人名索引のほか、すず夫人の日記を掲載しました。20年にわたった『平生鈺三郎日記』編纂事業は本巻の刊行によってその目的を達成し、幕を下ろすこととなりました。



▶募金の状況

平成27年10月1日に開始した学園創立100周年記念事業募金は令和2年9月30日をもって終了しました。合計約14億4千万円のご芳志を拝受し、目標金額20億円の約72%を達成する形で締めくくることができました。

寄付者種別	寄付件数	寄付金額(単位:円)
卒業生	2,405	399,090,011
在校生・保護者	343	19,389,000
教職員	312	84,882,345
一般・篤志家	27	34,929,010
法人	307	527,068,000
団体	128	377,993,414
総合計	3,522	1,443,351,780

※保護者には卒業生保護者を含む ※教職員には退職教職員を含む

03 新型コロナウイルス感染症対策

▶学生生活支援

大学・大学院	高等学校・中学校
<ul style="list-style-type: none"> ・一律5万円の「学修環境整備等支援費」を支給。 ・「甲南大学2020年度特別給付奨学金制度」を整備して支給。 ・「甲南大学2020年度後期授業料特別減免制度」を整備。 ・学費納付期限を延長。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一律1万円の「学習環境整備補助(通信費補助)」を支給。 ・「家計急変特別支援奨学金制度」を整備し、各学期に支給。

▶授業

大学では前期をオンライン形式にて4月20日に開始し、段階的に対面授業を実施しました。後期は対面による実施を原則(150名を超える授業はオンライン形式)とし、対面実施の割合は11月時点で約75%に至りました。その後の緊急事態宣言再発出に伴って再びオンライン形式が中心となりましたが、学年暦通りに後期授業を終了させることができました。またオンライン授業用サーバーの増強や授業支援システムの積極活用、教員向け講習会の実施、教室レイアウトの大幅変更等を随時実施したほか、オンライン受講環境の整わない学生には個別に連絡を取り、状況に応じたきめ細やかなサポートを実施しました。加えて図書室の郵送貸出やコンビニエンスストアでのプリントアウトサービス等を提供しました。

高等学校・中学校では、従前より生徒へ配付していたiPadを活用して4月からオンライン形式での授業を順次開始。全員へのiPad配付を完了した5月には全学年においてオンライン授業がスタートしました。その後は短縮授業や分散登校、夏休み短縮等の工夫を重ねながら対面授業へ移行し、年間カリキュラムを予定通りに終了させることができました。

▶入学試験

大学では2月の入学試験が実施できなかった場合に備え全日程の振替実施日を準備しました。また受験生に向けてはコロナ専用相談ダイヤルや体調不良時に追試験に臨める制度を整えたほか、試験当日は検温・換気・消毒を徹底しました。高等学校・中学校の入学試験においても大学同様の感染対策のほか試験場を分散させる等の工夫を行いました。

▶環境整備

大学の各キャンパス入口にAIサーマルカメラによる体温チェックと手指消毒、IC学生証の端末タッチ等による登校確認を経て入構する仕組みを整備。各教室では必要換気量に基づいた厳格な定員管理とレイアウト変更、徹底した消毒や換気を実施したほか、食堂ではアクリルパネル設置やレイアウト変更により、飛沫拡散防止と黙食・個食を促す工夫を実施しました。高等学校・中学校ではキャンパス入口付近に手洗い場を増設、網戸や空気清浄機の設置による換気と消毒を徹底しました。結果として本学園では大規模な感染拡大(クラスター)が発生することはありませんでした。

04 甲南大学の教育改革

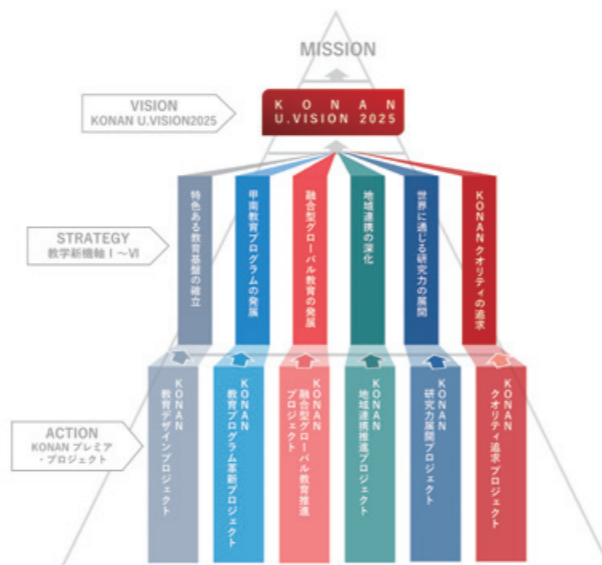
令和2年4月1日、中井伊都子法学部教授が第18代学長に就任しました。本年度は、長坂悦敬前学長のもとで定められた「KONAN U. VISION 2020」の完成年度にあたり、その方針である教学新機軸を中心に、「顔がわかる少人数教育」「アクティブ・ラーニング」「全学教育改革」「融合型グローバル教育」「地域連携・ボランティア教育」「Active-interactiveキャンパスの整備、魅力化」等に関する取組みを推進しました。

このうち主な成果として、全学教育推進機構の始動、リカレント教育センターの開設、文理融合コースの設置、オンライン留学規程の制定、Science Active Learning Commons (SaLaCo) の第3期整備等が挙げられます。また、同ビジョンに関する取組みは、アクティブ・ラーニング型授業を活性化するためのラーニング・アシスタント制度の導入、学生自身が学習成果を着実に身に付けていくうえで有効な学修ポートフォリオと教務システムを統合したシステムの整備、学生が持つ能力の伸長を促す取組みとしての「KONAN サーティフィケート」制度の活動、地域課題の解決を通じて学生の議論をする力や広い視野の獲得につながる「加古川『知』を結ぶプロジェクト」や「関西湾岸SDGsチャレンジプロジェクト」等の地域連携活動など、独自性の高い数々の成果を生み出し、これらは本年度に行われた大学基準協会による認証評価において長所として評価されました。

さらに令和3年度からスタートする次期ビジョンの策定に取り組み、「KONAN U. VISION 2020」の成果の継承・発展と新たな挑戦によって、さらなる進化をめざした「KONAN U. VISION 2025」を定めました。本学は、「KONAN U. VISION 2025」のもと、ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進め、同ビジョンに基づく新たな教学新機軸に沿って、全学挙げてその実現に取り組んでいきます。

■ 新世紀ビジョン「KONAN U.VISION 2025」の策定

「KONAN U.VISION 2020」の完成年度を迎えたことを受け、「KONAN U.VISION2025」の策定に取り組みました。「KONAN U.VISION2025」は、「人物教育率先」の理念のもと、甲南大学の2025（令和7）年におけるありき姿を示す3つのビジョンと、これを実現するための基本方針・施策である6つの教学新機軸、KONAN プレミア・プロジェクト等のアクションから成り立っています。また、大学全体のビジョン策定にあわせて、大学のすべての部局も新たなビジョンを定めました。令和3年度からは、以下に掲げるビジョンの実現に向けて推進体制を整備し、ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進めます。



VISION 1

ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進め、予測不可能な時代を「正志く、強く、朗らかに」生き抜く人物を育むことにより確固たる信頼を得る大学になる。

VISION 2

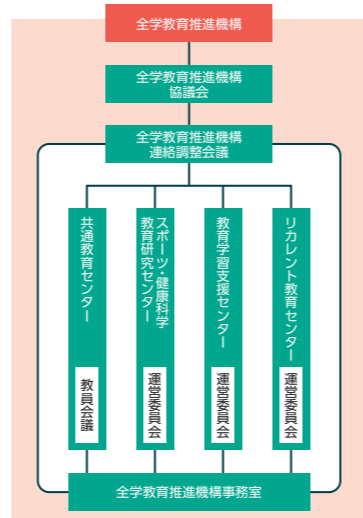
世界に通用する研究力と地域社会の発展に資する共働互助の力を教育に生かし、人物の育成と社会貢献を通じてよりよい社会の実現に持続的に貢献する大学になる。

VISION 3

つなげる力・つながる力を生かして絶えず革新を重ね、時代の変化の中でも強靱かつしなやかに進化し続ける質の高い大学になる。

■ 全学教育推進機構の設置と始動

「KONAN U.VISION 2020」において、3ステップからなる全学共通教育改革の目標となっていた「全学教育推進機構」が設置され、令和2年度より始動しました。「全学教育推進機構」は、本学の人物教育の基盤を支える全学的な教育および社会的要請に対応した教育を推進するとともに、教育の質向上に向けた全学的取組みを推進することを目的としています。共通教育センター、スポーツ・健康科学教育研究センター、教育学習支援センター、リカレント教育センターの4つのセンターを擁し、これらのセンターを有機的に繋ぐ機構として、全学教育推進機構連絡調整会議を設置しています。さらに、その中核となる共通教育センターの教員が、機構の各センターのみならず、学内各所で活動する体制をとるなど、全学教育の充実・発展に向けて活動を開始しました。



■ リカレント教育センターの新設

大学における多様な学生の受け入れに関する社会的要請に応え、「全学教育推進機構」のもとにリカレント教育センターを新設し、文部科学省が定める履修証明制度を活用した「人生100年時代の学び」プログラムの募集を開始しました。令和3年度は「大人の自己探求」「ネクスト・キャリアをどう生きるか」「情報社会のしくみを知り、安全に暮らす」「多文化共生、グローバル社会で生きる」の4コースを開講し、23名の履修生が受講を開始します。今後、さらなるプログラムの充実を図り、リカレント教育を通じて「社会で活動する」「キャンパスで学ぶ」の好循環をつくり出し、多様なバックグラウンドを持つあらゆる世代の社会人が共に学びあう場を提供することを通して、学ぶ人・学ぶ内容の多様化・多元化を図り、「マルチステージ型キャンパス」の実現に資することを目指します。

05 甲南高等学校・中学校

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中でスタートした新年度でしたが、昨年度から全生徒への配付を進めていたiPad等のICT 機器を最大限に活用することで、4月からすぐにオンラインによる授業を開始することができました。6月以降は対面による授業を再開して順次通常授業へ移行。生徒の安全を第一としながら、「学びの本質・学びの楽しさ」の理解と、学力の定着を図ることができました。

オンライン授業の実施にあたっては、一律10,000円の「学習環境整備補助（通信費補助）」を給付したほか、家計急変等に対する緊急の支援策として「家計急変特別支援奨学金」制度を創設し、各学期において募集と給付を行いました。

体育祭は、生徒のみが参加する無観客の形で、プログラム内容も工夫をして実施しました。また文化祭はオンラインで実施しました。文化祭専用のウェブサイト（学内および保護者に公開）を開設し、各種の展示や発表のほか、事前に録画した音楽演奏等を披露しました。例年とは異なる形態での文化祭の準備は多くの苦勞を伴いましたが、自治会総務（生徒会）が中心となってオンラインだからこそできるものと懸命に取り組んだ結果、素晴らしい文化祭となり、保護者や教職員からも大変な反響を得て、生徒たちにとっては大きな充実感と達成感を得る機会となりました。

甲南大学での授業を体験し、高校卒業後の進路と、高校までの学びと大学での学びの違いについて意識・理解することを目的とする「KONAN DAY」。例年は甲南大学岡本キャンパスを訪問していましたが、本年度はオンラインにて開催しました。生徒たちは合計16種類の講義から2つ以上の動画を視聴し、甲南大学での学びを知り、進学への動機づけを行いました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって留学生を送り出すことはできませんでしたが、グローバル・スタディ・プログラムの一環として「国内留学特別プログラム・対面セミナー」を開催しました。コーディネーターにMr. Lawrence Gordon氏（アメリカ）を招き、大阪大学（学部・大学院）への留学生8名（ブルガリア・アルジェリア・エジプト・ルーマニア・インド・マレーシア・インドネシア・ブルガリア）との交流や、グループワークを実施。様々な背景を持つ留学生との交流を通じ、生徒たちにとって大変に貴重な学びとなりました。



国内留学特別プログラム



KONAN DAY



06 戦略事業の展開

■ 先端生命工学研究所（FIBER）の第Ⅱ期プロジェクト7年目の研究推進

平成26年度に開始した第Ⅱ期プロジェクトでは、「FIBER第Ⅱ期計画」に基づき、文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究・分子夾雑の生命化学」（平成29年から5年間）に採択された研究ほか、公的研究を含めた研究を推進しました。また、核酸研究の国際的な研究拠点として、科学研究費助成事業の「国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）」（平成30年から3年間）に採択された国際共同研究を推進しました（コロナ禍の影響により一部の研究課題を令和3年度も継続予定）。これらの研究課題の遂行により、分子混雑状態の中での核酸の挙動を正確に予測し、先制核酸医工学のための創薬に活用できる研究成果を得ました。加えて、新たに物質・デバイス領域共同研究拠点に申請した「修飾核酸塩基を用いた SARS-CoV-2 RNA の構造制御法の開発」がCOVID-19共同研究課題に採択されました。

本年度の研究成果は、米国科学アカデミー紀要（Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America）をはじめ、国際的に著名な学術雑誌に多く掲載され、コロナ禍にあっても高い研究レベルを維持し、学術的、社会的に価値のある成果を挙げることができました。また、これまで研究成果の還元として取り組んできた一般公開講演会や大学院生・学部生、高校生等、幅広い世代を対象にした講演会なども、オンラインを活用した講演会（FIBER Webinar Universe）として多数開催し、海外からも多数の参加がありました。



オンライン講演会 (FIBER Webinar Universe)

I 事業の概要

大学・大学院

1 教育

(1) “顔がわかる”少人数教育の推進 〔中期計画:大I-1〕

共通教育の授業を通じ、学修ポートフォリオの利用を周知し、学生一人ひとりの自律的成長を支援するシステムとしての活用を促進。学生を教職員で守り・育てるための情報基盤として学生カルテの再整備に着手。

(2) アクティブ・ラーニング(能動的学習)の推進 〔中期計画:大I-2〕

新型コロナウイルス感染症対策下における学生の能動的学習を促進。FD(Faculty Development)活動の一環としてWeb授業でのアクティブ・ラーニング実践事例を共有。Web授業に対応したラーニング・アシスタントを育成・授業への派遣。サイバーライブラリをサポート体制のあるWeb授業受講会場として開放し、学生の授業時間内・外両面の学びや成長を支援。

(3) 革新的共通教育の推進〔中期計画:大I-3〕

理系の学生が潜在的に持つ多様な志向や進路選択に対応することを目的とした文理融合コースの設置を準備。同コース開設に向けてキャリア創生共通科目に「文理融合総合研究」等の演習科目を新設。「共通基礎演習」をはじめとした導入共通教育等の全学教育を充実。

(4) 融合型グローバル教育の推進 〔中期計画:大I-4〕

ニューノーマル時代の留学・国際交流の形を検討、実施。渡航プログラムを中止し、オンラインによる留学プログラム(エリアスタディーズ2コース)、交流プログラムを実施。短期オンライン留学を制度化。グローバルゾーン“Porte”におけるオンラインLOFTアクティビティを開催。

「言語と文化」の分野での体系的な学びを意識化・可視化する取組みとして、国際言語文化科目を副専攻として学修したことを認定する修了証を2020年度卒業生より発行。

正規留学生へ生活支援。ダブルディグリー制度を整備。

(5) 内部質保証活動の持続的発展と認証評価対応 〔中期計画:大III〕

大学基準協会による第3期認証評価を受審し適合認定。「ラーニング・アシスタント制度」「教務システムと学修ポートフォリオの統合」「KONAN サーチファイケイト制度」「加古川『知』を結ぶプロジェクト」「関西湾岸SDGsチャレンジプロジェクト」等の地域課題解決への取組みは長所として評価。一方「内部質保証のPDCAサイクルと大学中期計画の結びつきが不十分」、「大学院の定員が未充足」が改善課題。

(6) コロナ禍における学習支援

コロナ禍における学びの継続を目的とし、学生・教員に向けた各種の取組みを実施。いち早く全学的にZoomを導入したほか、必要となるソフトウェアや機器・機材を迅速に調達。ポータルサイトMy KONANを中心に据えたWeb活用授業を推進し、学生/教員からの問合せにきめ細やかに対応。教員に

はWeb活用授業講習会の開催、Tips集の作成と配布、My KONAN活用支援等を実施。学生には学習用機材やWeb授業受講会場等の提供に加え一人ひとりの状況にあわせた個別支援を実施。

(7) 法科大学院の取組み

令和2年司法試験では受験者25名に対し短答合格21名(合格率84%)、最終合格4名(同16%)、また在学中に2名が予備試験を経て合格。コロナ禍ではオンライン授業を円滑に導入し、授業動画や資料もオンラインで提供。さらに在學生・修了生への学習指導や面談等を継続し、教育の質を維持しつつ学習サポート体制を強化。

(8) 教員養成の取組み

コロナ禍に伴う教育実習期間短縮に対して「教育実習補充プログラム」で対応。介護等体験中止に対しては代替措置を実施。教員希望者に対して、教員採用試験対策講座を実施。公立学校教員採用試験に現役合格者16名、過年度卒業生を含めると66名(延べ)の合格者を輩出。電子黒板やデジタル教科書を活用したICT活用授業実践にも着手。

(9) 公認心理師養成センターの取組み

3年目となる公認心理師養成カリキュラムの安定的な実施と充実。国立大学法人鳴門教育大学・兵庫教育大学をはじめとする8大学院との連携協定に基づく公認心理師養成大学院への推薦入学・特別選抜試験を開始、学生の進学を支援。新入生への積極的な情報提供や「公認心理セミナー」実施等により、公認心理師を志望する学生を幅広く支援。

2 研究

(1) 研究力の可視化〔中期計画:大III〕

「甲南大学研究力可視化プロジェクト」を継続実施。甲南大学の高い研究力を可視化し学内外に公開。公開用WEBページを高校生ほか広く一般の方々にも分かりやすくアピールできるものへ改良。研究年報、研究シーズ集を発刊し、研究実績・成果を学内外に公表。

(2) 研究支援体制の強化

各種競争的研究資金の申請から管理・執行までの一元的支援体制を強化。産官学連携コーディネーターとの連携等による、各種助成金・競争的資金にかかる積極的な情報提供を推進。

(3) 研究費の適正管理・コンプライアンスへの対応

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に準拠した研究支援・不正防止体制の整備、コンプライアンス教育を実施、モニタリング強化。研究費にかかるマニュアルを統一し、適正な執行に向けて体制整備を推進。

(4) 知財管理・活用体制の整備

「甲南大学知的財産戦略」「甲南大学知的財産ポリシー」等に基づき、重点分野として定めた生命科学・環境科学・エネ

ギー科学・情報科学の分野を中心に、知的財産の適切な管理と有効活用を推進。本学の有する知的資産の有効活用に向けた学外への広報活動の体制整備。教員に向けたリスクマネジメント研修会等を実施。

(5) 学内の各種研究助成による研究支援

「平生太郎基金」「伊藤忠兵衛基金」「甲南学園教育・研究基金」等の運用果実を活用した研究・出版・外国人研究者招聘等への助成。

① 平生太郎基金科学研究奨励助成

申請者	研究課題	助成金額
杉本 直己 先端生命工学研究所 教授 (生命分子化学)	核酸の構造及び安定性の制御に基づく新規の脳疾患抑制法の開発	1,500万円
西村 いくこ 特別客員教授 (植物分子細胞生物学)	植物オルガネラ動態研究を基盤とするバイオテクノロジー研究拠点形成	880万円
久原 篤 理工学部生物学科 教授 (分子神経遺伝学)	細胞や臓器の低温長期保存に向けた遺伝子解析	520万円
渡邊 順司 理工学部機能分子化学科 教授 (生体材料創成学)	新規ポリマーアロイ創製法の開拓を基軸とした研究拠点形成	600万円
助成金額合計		3,500万円

※平生太郎基金科学研究奨励助成：学園創立者平生鈞三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始した本学の研究奨励助成制度。

② 平生記念人文・社会科学奨励助成

申請者	研究課題	助成金額
伊藤 健顕 マネジメント創造学部 准教授 (会計学・財務会計)	トピックモデルを用いた記述情報の分析	60万円
早瀬 勝明 法科大学院 教授 (憲法学・言語哲学)	日本国憲法における起草者(制定者)の意図 Framer's intent in Japanese Constitution	20万円
助成金額合計		80万円

※平生記念人文・社会科学奨励助成：平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された甲南学園が、学園の資金で人文・社会科学系分野の研究を奨励する助成制度。

③ 伊藤忠兵衛基金出版助成

申請者	著書名	助成金額
帯谷 博明 文学部 教授 (社会学)	水環境ガバナンスの社会学	150万円

※昭和51年、第3代・第5代理事長伊藤忠兵衛の遺言により遺贈を受けた財産で、学術研究の出版助成を目的とした基金。その後、昭和57年にその他の特定基金として統合し、甲南学園教育・研究基金となり、同時に国際交流助成制度を整備した。

④ 国際交流助成

外国人研究者招へいに1件、合計40,000円を助成。

⑤ 総合研究所

学術の進歩に寄与することを目的として、昭和59年に設置された総合研究所の下、人文・社会・自然科学の諸分野にわたる総合的な共同研究3件に対し、研究費を助成。

3 学生生活支援

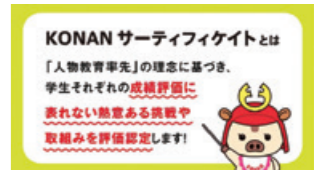
(1) 奨学金・就学支援制度の安定運用とさらなる充実

新型コロナウイルス感染症の影響による家計急変への対策として「甲南大学2020年度特別給付奨学金」「甲南大学2020年度後期授業料減免制度」を新設し、延べ182名に奨学金給付や学費の減免を実施。

「高等教育の修学支援新制度(給付型奨学金・授業料等減免)」の安定的運用を推進。その他の奨学金制度の積極的な周知・広報による学生生活支援。

(2) KONAN サーチファイケイトの活性化

「人物教育率先」の理念に基づき、授業では評価しきれない学生の個性ある挑戦を評価認定する「KONAN サーチファイケイト」制度を推進。ライブラリ、グローバル、ボランティア、スポーツ、ラーニングサポートの5分野で、コロナ禍においても積極的に活動に取り組んだ57名の学生を新たに認定。自らの個性を最大限に伸ばし顕著な成果を挙げ、サーチファイケイト1級に認定された学生に対して奨励金を授与する「甲南大学伊豫田隆俊名誉教授奨励金」制度を整備。

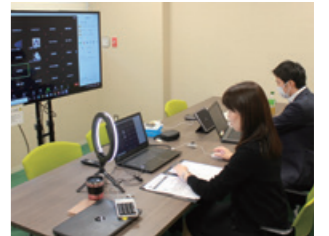


(3) 障がい学生支援体制の整備・再構築

障がい理解啓発活動を推進。車いす体験講座、ノートテイク・PCテイク体験講座を実施、障がい理解啓発ポスターを作成。より多くの学生の参画を目指し、学生ボランティアの育成・拡大にも注力。YOUステーション(支援室)の修学支援コーディネーターを増員し、体制を強化。

(4) キャリア形成・就職支援

オンラインでの個別相談を開始、大学に来なくても就職支援に関する疑問や不安を解消できる体制を構築。就職支援講座のオンライン化・オンデマンド配信を開始、個々の学生の状況に応じた質の高い進路支援を実施。増加傾向にある公務員志望者へのサポートプロジェクトの充実。地方自治体との就職協定に基づいた連携強化。



(5) 学生生活支援の充実化

人物教育の一環として、学生と共に学生のマナーアップに取り組む体制を構築。身近なトラブルの予防に向けた指導を強化。学生の健康保持・増進。学生表彰制度を刷新し、学術・研究分野、ゼミ活動分野を新たに設置。

I 事業の概要

(6) スポーツ教育力の強化

スポーツ強化支援事業として体育会強化指定クラブを積極的に支援。体育会所属学生の修学・キャリア等を支援するプログラム「甲南アスリートサポートプログラム (KASP)」を充実。「甲南学園中期計画 (2020～2024)」の一環として立ち上げた「スポーツ強化支援検討タスクフォース」により新たなスポーツ強化支援策の検討を開始。「KONANスポーツサーティファイケイト」により、様々な自発的なスポーツ活動を評価。

(7) 学修環境整備への支援

コロナ禍におけるオンライン授業の受講に向けた環境整備の支援として、学生1人50,000円の学修環境整備等支援費を支給。また通学が困難な学生に対するWi-Fi機器の貸出しやコンビニエンスストアでの講義用資料の印刷費(ネットワークプリントサービス)を実施。図書館資料の郵送による貸出しを実施。

4 社会連携・社会貢献

(1)「関西湾岸SDGsチャレンジ」「加古川『知』を結ぶプロジェクト」の実施(中期計画:大I-5)

過去2年間の実績を踏まえ、コロナ禍における新しい形式として、オンラインを駆使したフィールドワークや成果報告会を実施。国際的な課題であるSDGsに対し、本学の教育力を生かしてより一層充実した活動を展開。

「関西湾岸SDGsチャレンジ」では、神戸・堺・和歌山・徳島・岡山の5市協力の下、オンラインを併用した形でプロジェクトを実施。地元高校生と甲南生がひとつのチームとなり、SDGsの達成を目的に地域課題の解決に取り組む本学独自のプログラムを展開。

「加古川『知』を結ぶプロジェクト」はオンラインツールを活用してゼミを中心とした4団体が活動を展開。



(2) 地域連携・ボランティア教育の推進(中期計画:大I-5)

新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、内容・実施時期の変更やオンラインの活用により各種の地域連携活動を実施。ボランティア活動にかかる情報を積極的に提供。今年度の「KONANボランティア・サーティファイケイト」の取得者は9名(1級1名、2級3名、3級5名)。

(3) 大学間連携の推進

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業(タイプ5、タイプ3)」の採択(平成29～令和元年度)を踏まえ、「大学コンソーシアムひょうご神戸」の理事校として、大学間連携活動を一層強化。プラットフォームとなる「ひょうご産官学連携協議会」の中長期計画である学生交流事業(災害ボランティアプログラム)を積極的に推進。

(4) 自治体・各種団体等との地域連携事業の推進(中期計画:大I-5)

神戸市と市内7大学との連携事業として、「大学都市KOBE発信プロジェクト」に参画。「知の世界を楽しむ学ぶ」をテーマに、グランフロント大阪にて非接触型での展示を実施。7大学の連携イベントとして、オンラインでの特別講座も開催。学生団体の主導により、オンラインを中心とした御影クラスセとの新たな連携事業を企画・実施。



(5) 産官学連携活動の推進

本学の知的資産の有効活用に向け産業界・官公庁・大学・協定機関との連携を強化。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により展示会の開催中止が相次ぐ中、WEB出展で対応。研究力・研究成果を可視化して学内外へ発信。産学連携戦略とアクションプランを策定。「クロスアポイントメント」「安全保障輸出管理」の各体制を整備。

	件数	金額(千円)
受託研究	22件	96,718
共同研究	59件	31,116
奨学寄附金	23件	19,670
助成金	17件	25,949

(6) 生涯学習支援・地域の児童や生徒に向けた取組み

リカレント教育として、学校教育法に基づく体系的な学びを行う課程「人生100年時代の学び」プログラムを企画し、令和3年度開講に向けて一期生を募集。新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた公開講座を、秋期は対面形式、冬期はオンライン形式により実施。東京海上日動株式会社、神戸市と連携し、神戸市立魚崎中学校2年生を対象に「ぼうさい授業」を実施。新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた「状況に応じた避難方法」など、防災に関して楽しく学ぶワークショップを大学生が企画し、オンラインで実施。

(7) 甲南四法人共催「新型コロナウイルス感染対策講演会」を開催

甲南四法人(甲南女子学園・甲南小学校・甲南医療センター)の共催により、10月23日に教育現場のコロナ対策を考える講演会を開催。甲南医療センター感染対策室の松本悠子看護師長による講演に約160名(オンラインを含む)が参加。甲南小学校の児童から甲南医療センターの方々へ、感謝の歌と千羽鶴を贈呈。



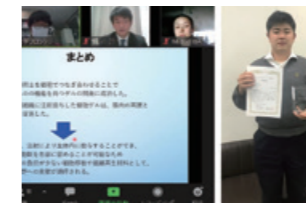
5 高大接続・学生募集・入学試験

(1) 入学者選抜制度の改革と検証(中期計画:大III)

新型コロナウイルスの感染拡大下の措置として、各入試制度の特性にあわせ出願資格の弾力的な運用、振替試験・追試験日程の追加などを実施。入学者数は、各学部との連携強化により、合格者数を5,165名(昨年度4,546名)と引き上げたことに加え、追加合格の日程を変更したことにより、2,101名(昨年度2,032名)に回復。

(2) 高大接続活動の継続的展開と対象地域への活動強化(中期計画:大III)

本学の高大接続活動の重要な柱である「リサーチフェスタ」はオンライン形式に変更して実施、34校、1,005名が参加。高等学校とのコミュニケーションの深化を目指す第2期高校訪問活動(令和元～3年度)は、154校の高校に対し、対面のほか電話やメール等を活用したコミュニケーション活動を実施。高校訪問活動用ツールである『KONAN DATA BOOK』『KONAN DIGEST』の改訂版を発行。



リサーチフェスタ

(3) アドミッションセンターの活動充実

受験生や保護者が日常のキャンパスを見学できる「フリーキャンパスビジット」は、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、事前予約制で実施した結果、341名が参加(昨年度239名)。対面式のイベントが制限される中、秋のオープンキャンパスは対面形式とWEB形式を併用して開催。受験生向けWebサイト「甲南Ch.」では、キャンパスを自由に見学できない期間も動画による本学の魅力を発信。



(4) 入学予定者を対象とした高大接続教育の実施

スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験および甲南高等学校からの推薦入学予定者を対象に、学部横断型の入学前スクーリングを実施し、円滑な高大接続を推進。

6 キャンパスの魅力化・環境整備

(中期計画:大II)

理工学部 Science Active Learning Commons (SaLaCo) 第3期工事により7号館1階エントランスにある学生ホールをアクティブラーニングフロア化。自主学修・グループ学修



の定着ほか、多様な学修スタイルへの対応を継続実施、サイエンスエントランスゾーンとしての機能が充実。

7 課外活動

(1) 各種助成金の支給

スポーツ強化支援「強化指定団体制度」に基づく、強化指定団体(11団体)を対象とした「重点強化助成」の助成額を査定、交付。その他体育会クラブを対象とした「活性化助成」「振興助成」による指導者招聘のための助成金を交付。

(2) 各種イベントの実施

体育会リーダーズキャンプの実施支援。指導者・学生を対象とした課外活動安全講習会をオンライン実施。甲南スポーツファン獲得を目指し、新たにSNS(Instagram)を開設。課外活動加入促進を目指し、KONANウェルカムデーを実施。



KONANウェルカムデー

(3) 主な活動成果(金甲賞 受賞クラブ)

※金甲賞は甲南大学父母の会創立40周年を記念し、学生の課外活動を活性化することを目的として平成6年に設けられた表彰制度。

体育会自動車部

2020年度第1回全関西学生ジムカーナ選手権大会
個人優勝

体育会柔道部

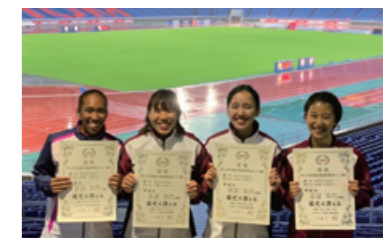
2020年度第39回関西学生柔道体重別選手権大会
90kg級優勝

体育会女子陸上競技部

天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子4×100mR 第2位
第104回日本陸上競技選手権大会リレー競技
女子4×100mR 第5位
第104回日本陸上競技選手権大会
女子走高跳 第4位

体育会フィギュアスケート部

ISUグランプリ
NHK国際フィギュアスケート競技大会 第4位
第89回全日本フィギュアスケート選手権大会 第5位



女子陸上競技部

I 事業の概要

高等学校・中学校

1 教育

〔中期計画：高I〕

- ・フロントランナーコース生を対象とした中学2～3年生の「サイエンスラボ」「グローバルラボ」、高校2年生の「ハイレベルサイエンスラボ」の実施。
- ・高校1～3年生のアドバンストコース生を対象に「志厚き人類社会国家有用の材幹を養成」を体現する「キャリアデザイン」教育を実施し、OB企業訪問や有識者による講演を実施。
- ・各界の第一線で活躍されている著名人を招へいた講演会「ソフィア」において、東京大学名誉教授・国立研究開発法人海洋研究開発機構元理事長平朝彦先生による講演「地球深部探査船「ちきゅう」の挑戦～プレート沈み込み帯の謎を解く～」をオンライン形式にて実施。
- ・中学3年生全コース生および高校2年生アドバンストコース生を対象に、社会で活躍されている卒業生を招聘した「OBワークショップ」の実施。
- ・「KONAN DAY」「甲南高等学校～甲南大学 引継式」等、甲南大学との連携強化。環境学習の実施による、甲南小学校・甲南女子中高・甲南大学との連携強化。

2 学習活動支援・学校生活支援

〔中期計画：高II〕

- ・教育支援システム「Classi」による学習サポート・進路指導等を強化。
- ・ネイティブ教員が中心となってプログラムする「English Day」の実施。
- ・高校1～3年生のフロントランナーコース生を対象とした「学習合宿」に代わり、学校にて特別補習を実施。
- ・デジタル教科書の利用、授業のICT化、アクティブ・ラーニングの推進。
- ・学習遅進者へのケアに向けたプログラムの導入。

3 国際交流活動

〔中期計画：高III〕

- ・「グローバル・スタディ・プログラム」の一環としての高校2年生の海外留学を実施しているが、今年度はコロナ禍にあるため、代替のセミナーとして「国内留学特別プログラム・対面セミナー」を開催。

4 生徒募集・入学試験

〔中期計画：高IV〕

- ・学校案内冊子のリニューアル、教育情報誌の活用や各種広告の掲載等により、本学の魅力を校内外に伝える様々な取り組みを実施。
- ・本校に來校しての入試説明会、学校見学会に加えて、オンライン形式でも全体説明の様子を配信することでコロナ禍に対応した生徒募集活動の強化。

5 進路状況

それぞれのコースの特性を活かし、一人ひとりの適性や個性に応じて自己の進路を確立。内部推薦で約4割強が甲南大学へ進学。他の約6割弱は国公立大学、首都圏・関西等の医歯薬系も含めた私立大学に加え、海外の大学へ進学（留学準備者含む）。

6 環境整備

〔中期計画：高III〕

- ・学習センター、理科実験室等のAV・ICT環境整備。
- ・アクティブ・ラーニング環境の整備、充実化。

7 課外活動

主な活動成果

<高等学校>

アーチェリー部

兵庫県高校総体代替大会 個人優勝、団体3位

弓道部 兵庫県高校総体代替大会弓道 個人優勝

バスケットボール部

兵庫県高校総体代替試合阪神地区予選 ブロック優勝

野球部 令和2年度夏季兵庫県高等学校野球大会 ベスト16

将棋部 兵庫県高校将棋選手権代替大会 A級2位、3位

美術部 第21回高校生国際美術展個人奨励賞

馬術部 第44回全日本ジュニア障害馬術大会2020

チルドレンライダー選手権競技10位入賞

テニス部

全国選抜近畿地区予選第5位、全国選抜高校テニス大会出場

ボランティア委員会

高校生ボランティア・アワード SOMPOケア賞受賞

ゴルフ部

全国高等学校ゴルフ選手権春季大会 個人の部 4位、18位



弓道部（高等学校）

<中学校>

テニス部 近畿私学中学校テニス大会団体 準優勝

ラグビー部 兵庫県中学校総体代替試合 優勝

ゴルフ部 全国中学校ゴルフ選手権大会 3位



ラグビー部（中学校）

法人

1 学園運営の一層の健全化

〔中期計画：法I〕

(1) 学園教育機能充実のためのガバナンス体制の点検・整備

学園本部会議を活性化。「甲南学園中期計画（2020～2024）」推進のほか、本学園が丸となって教育・研究に邁進するための中枢機能としての位置付けを明確化し、理事会付議事項を中心に、本学園内の重要事項を共有、議論する場として整備。

(2) リスクマネジメント体制の強化

学園全体のコンプライアンス体制強化とより一層の推進を目的とした「コンプライアンス規程」を制定。ハラスメントにかかる役員・教職員等からの相談に対応するための「ハラスメント防止対応規程」、法令・規程違反の通報に対応するための「内部通報対応規程」を制定。

(3) 強靱な組織体制の構築と整備

教職員の研修方針・体系を作成し、フロンティア研究推進機構、監査部共催による「コンプライアンス研修」を実施。業務の電子化とコロナ禍等の有事に対応するため「甲南学園職員の在宅勤務に関する規程」を制定。業務効率化のため、給与明細書の配付や年末調整の申告等の人事関連業務を電子化。福利厚生として人間ドック助成制度を新設。さらに健康増進の施策として、感染症対策を施し、リラックスできるスペースに職員休憩室を改修。

(4) 中期計画の進捗管理と見直し作業

法人中期行動計画（Version1.0）により、月次進捗を管理し理事会等で報告するサイクルを構築。中期行動計画をもとに作成した「中期計画で達成したいこと（法人）」を学内に周知。スローガンキーワード毎に各年度で達成したいことを可視化。

2 安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備

〔中期計画：法II〕

(1) 快適・安全なキャンパスづくりと省エネの推進

新型コロナウイルス感染症対策として複数箇所に検温コーナーを設置。大学・高等学校・中学校等のブロック塀改修工事、六甲アイランドラグビー場兼サッカー場人工芝更新工事、高等学校・中学校小体育館・卓球場の特定天井対策工事を実施。エネルギー消費原単位の削減に向け、岡本キャンパス複数箇所の空調設備を更新、照明LED化。岡本キャンパス内各所への点字シール・点字ブロック敷設。

(2) 情報通信環境の整備

サイバーセキュリティインシデントや機器の障害による被害を極小化するために学内ネットワーク機器およびサーバを24時間365日リモート監視。教育系仮想サーバおよび学生用ネットワークプリントシステムを更改、事務職員用メールシステムをクラウド化。

3 財政基盤の強化

〔中期計画：法III〕

減価償却累計額30%以上の再投資資金積立に向けた管理を行い、同引当特定資産のシミュレーションにより積立額が達成で

きるよう中期的な資金計画を立案。入学定員超過率の実績を踏まえ学納金収入推移を予測。

4 社会との結節点としての広報機能の拡充

〔中期計画：法IV〕

(1) 芸術活動・スポーツへの協賛などの地域創生への参画

地域貢献や青少年の育成を目的として、兵庫県立芸術文化センター、堺ブレイザーズ、西宮ストークスをはじめとする地域性の高い諸団体への支援を継続実施。

(2) 卒業生・同窓会組織との連携

甲南大学同窓会との共催による「オール甲南の集い<ONLINE>」（10月25日）をオンライン形式で開催。動画共有サービスYouTubeでライブ配信により世界中に配信し、約8,600名の閲覧数を記録。卒業生で東北大学災害科学国際研究所 保田真理氏による基調講演やシンガー・ソングライター八神純子氏のトーク&ライブ等のほか、甲南大学同窓会ホームページ上での「KONAN ONLINE GALLERY」を開設。



(3) 広報活動の充実・ブランド強化

甲南学園の現状を伝える広報誌『KONAN TODAY』を2回発行。No.58では長坂理事長・中井学長のメッセージのほか、本学園の新型コロナウイルス対策を掲載。冊子媒体に加えホームページ上でもPDFデータを公開し、学内外に情報発信。



『KONAN TODAY』No.58

(4) 神戸市ふるさと納税「KOBЕ学生サポート」制度への参画

神戸市内の大学等で学ぶ学生への支援を目的とした神戸市による助成制度に参画。『KONAN TODAY』による案内のほか同窓会等へ協力依頼。甲南大学を指定した寄附の金額は8,624,000円（111件）。

(5) 「KONAN-PLANET」開設に向けた取り組み

「甲南学園中期計画（2020～2024）」の一環として、甲南学園と卒業生、在校生、地域社会の方々がよりつながることを目指した新しいプラットフォーム「KONAN-PLANET」の開設を決定。令和3年4月21日開設に向けた検討・準備を推進。



(6) 甲南の持つ歴史的・文化的資産の再評価と社会への発信

貴志康一「ヴァイオリン協奏曲」出版（令和3年度）に向け、指揮者 木許裕介氏による監修のもと大掛かりな編纂・校訂作業を継続実施。長谷川三郎作品の展覧会への作品貸出、学外専門家と連携した保全・保管の取り組みを実施。

II 財務の概要

I 令和2年度決算の概要

令和2年度は、ほぼすべての大学で新型コロナウイルス感染症の対応に追われることになりましたが、本学もできうるすべての対策を講じ、決算にもそれらの内容が盛り込まれています。具体的には、令和元年度末からの感染拡大を受け、令和2年度前期授業の開講の際に、情報環境整備のための支援費の支給、家計急変家庭への学修継続支援としての給付制奨学金(後期は授業料減免)を検討・実施しました。また、対面授業の実施に備えて施設面の改修や投資は当初予定通り実施するとともに、感染症対策を十分に行うことも決定し、コンビニエンスストアでの講義資料出力の印刷代、自宅への図書資料の郵送代などにも対応しました。同時に、それらを実施するための財源確保として、当初予算内容の見直しにも着手し、コロナ対応の財源確保に努めました。

以上のような諸方策を講じ、最終的なコロナ対応に伴う支出は6億65百万円を計上しました。この中には有料版Zoom(オンライン会議システム)の使用契約、学生ポータルサイト「My KONAN」の性能強化、キャンパス内のどこでもオンライン授業を受講できるよう無線LANアクセスポイントを増設するなど、安定的にオンライン授業を受講でき、様々な自習エリアでの学習を可能とするための支出も含まれます。本学はこれまで「My KONAN」をはじめ、情報環境の整備に取り組んでいたこともあり、講義の配信が中断するなどの大きなトラブルもなく、必要な増強部分に速やかに重点投資することで、オンライン授業を円滑に実施することができました。また学園中期計画を推進するためのプロジェクトを進めており、DX推進を加速する投資も行いました。

他方で国や学園同窓会、父母の会などの各種団体や個人様から83百万円の支援を頂戴しました。感染症の状況により、残念ながら実施を見合わせたイベントもありますが、実施形態をオンラインへ変更する、または規模を縮小実施するなどに対応しました。しかし、旅費交通費・委託業務費をはじめとする支出が抑制され、9月の補正予算編成時に見込んだ事業活動収入に占める事業活動支出割合102.3%は、決算では99.96%となりました。

なお年度末の財政状態は18ページの貸借対照表をご覧ください。支出額が増えましたが、昨年度と同様に諸施設の再投資資金

となる償却引当預金率を高めました。

(キャンパス入構時の検温設備、学食・教室・会議室などの飛沫防止パネル、各スポットでのアルコール消毒液などの配備、網戸や換気扇増強などの感染症・安全対策は既に講じていますが、追加的に必要となる際には令和3年度も迅速に対応する方針です。また計画した事業は中止するのではなく、オンラインや少人数での実施など、これまでのコロナ対応の経験を活かし、予算執行します。)

以下、各決算数字をご説明します。

I 資金収支決算の概要

予算対比では、補助金収入、受取利息・配当金収入が伸びました。前者は修学支援にかかる授業料減免交付金の受入れに際し、補助金収入と教育研究経費支出(奨学費)に両建てとする会計処理が示されたことを受けて4億18百万円を計上したこと、兵庫県経常費補助金が想定を上回ったことが要因です。また経常費補助金の「教育の質」も想定より点数が伸び、増額となりました。後者は保有有価証券の買取りに伴う償還や保有金融資産の配当金が伸びたことによります。学生生徒等納付金収入は前期卒業者が減少したこともあり、増額となりました。

逆に手数料収入・寄付金収入は減額となりました。前者の減少は、単に収入減として捉えるのではなく、受験生の本学への関心度合いからもテコ入れが必要だと受け止めています。後者は学園創立100周年募金事業である奨学費支出が減少したこと、日本私立学校振興・共済事業団からの配付額が減少しました。

他方で支出面は先述の奨学費、施設関係支出の一部振替による修繕費、コロナ対応による消耗品費など、教育研究経費支出が増額しました。しかし新型コロナウイルス感染症拡大により、国外のみならず国内も含めた移動自粛による旅費交通費、体育施設へのバス運行の見合わせやイベントの中止・規模縮小により委託業務費や広告費など、多くの科目で執行残が発生しました。また設備関係支出では内容精査、入札・相見積りでの取得により、執行額が減りました。

なお引当特定資産への積増しである資産運用支出は、例年通り経常的な資金の収支残を繰入れたため、予算を上回りました。

I 資金収支計算書(学園総括) 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	11,061,390	11,084,181	△ 22,791	人件費支出	7,994,392	7,909,168	85,224
手数料収入	617,530	470,885	146,645	教育研究経費支出	3,807,357	3,948,555	△ 141,198
寄付金収入	263,500	228,551	34,949	管理経費支出	691,291	584,200	107,091
補助金収入	1,345,107	1,777,400	△ 432,293	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	0	217	△ 217	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	124,700	129,423	△ 4,723	施設関係支出	870,295	763,721	106,574
受取利息・配当金収入	247,500	393,507	△ 146,007	設備関係支出	388,325	316,055	72,270
雑収入	413,525	422,543	△ 9,018	資産運用支出	2,877,726	3,449,458	△ 571,732
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	1,073,529	1,079,550	△ 6,021
前受金収入	1,974,733	1,930,499	44,234	予備費	(219,941)		50,059
その他の収入	3,121,890	3,092,182	29,708		50,059		50,059
資金収入調整勘定	△ 2,190,004	△ 2,260,065	70,061	資金支出調整勘定	△ 711,504	△ 700,308	△ 11,196
前年度繰越支払資金	10,276,422	10,276,422	0	翌年度繰越支払資金	10,214,823	10,195,346	19,477
収入の部合計	27,256,293	27,545,745	△ 289,452	支出の部合計	27,256,293	27,545,745	△ 289,452

(注記) 予備費からの振替
計: 219,941 (教育研究経費支出: 159,599、管理経費支出: 15,453、施設関係支出: 19,983、設備関係支出: 24,906)

I 活動区分資金収支計算書(学園総括) 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位:千円)

(注記) 調整勘定の計算 (単位:千円)

科目	金額
収入	
学生生徒等納付金収入	11,084,181
手数料収入	470,885
特別寄付金収入	180,114
経常費等補助金収入	1,704,251
付随事業収入	128,993
雑収入	422,543
教育活動資金収入計	13,990,967
支出	
人件費支出	7,909,168
教育研究経費支出	3,948,555
管理経費支出	584,200
教育活動資金支出計	12,441,923
差調整勘定引	1,549,044
調整勘定等	4,171
教育活動資金収支差額	1,553,215

科目	金額
収入	
施設設備寄付金収入	48,437
施設設備補助金収入	73,149
施設設備売却収入	217
第2号基本金引当特定資産取崩収入	0
償却引当特定資産繰入収入	1,165,919
理系学部設備充実費引当特定資産取崩収入	38,351
施設整備等活動資金収入計	1,326,073
支出	
施設関係支出	763,721
設備関係支出	316,055
第2号基本金引当特定資産繰入支出	0
償却引当特定資産繰入支出	2,112,241
理系学部設備充実費引当特定資産繰入支出	43,534
施設整備等活動資金支出計	3,235,551
差調整勘定引	△ 1,909,478
調整勘定等	△ 89,138
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,998,616
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	△ 445,401

科目	金額
収入	
借入金等収入	0
第3号基本金引当特定資産取崩収入	0
退職給与引当特定資産取崩収入	843,728
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産取崩収入	389,524
大学将来計画準備引当特定資産取崩収入	0
平生太郎基金引当特定資産取崩収入	33,110
岡崎一雄基金引当特定資産取崩収入	4,800
八木慎二基金引当特定資産取崩収入	0
中高教育充実引当特定資産取崩収入	0
貸付金回収収入	42,741
預り金受入収入	349,877
仮払金受入収入	59
立替金受入収入	0
敷金・保証金回収収入	0
小計	1,663,839
受取利息・配当金収入	393,507
収益事業収入	430
その他の活動資金収入計	2,057,776
支出	
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
第3号基本金引当特定資産繰入支出	13,987
退職給与引当特定資産繰入支出	826,357
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産繰入支出	300,000
大学将来計画準備引当特定資産繰入支出	0
平生太郎基金引当特定資産繰入支出	148,228
岡崎一雄基金引当特定資産繰入支出	5,000
八木慎二基金引当特定資産繰入支出	0
中高教育充実引当特定資産繰入支出	0
出資金支出	111
貸付金支払支出	1,365
預り金支払支出	297,271
仮払金支払支出	109
立替金支払支出	1,023
敷金・保証金支払支出	0
その他の活動資金支出計	1,593,451
差調整勘定引	464,325
調整勘定等	△ 100,000
その他の活動資金収支差額	364,325
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△ 81,076
前年度繰越支払資金	10,276,422
翌年度繰越支払資金	10,195,346

※企業会計と学校法人会計の相違につきましては、本学ホームページに記載しています。

科目	金額
収入	
前受金収入	1,930,499
前期末前受金*	△ 1,893,930
前期末未収入金収入	195,782
期末未収入金*	△ 292,986
収入計	△ 60,635
支出	
前払金支払支出	155,791
前期末前払金*	△ 173,477
前期末未払金支払支出	479,711
期末未払金*	△ 526,831
支出計	△ 64,806
調整勘定計	4,171

科目	金額
収入	
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	28,291
期末未収入金*	△ 73,149
収入計	△ 44,858
支出	
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	44,280
期末未払金*	0
支出計	44,280
調整勘定計	△ 89,138

科目	金額
収入	
前受金収入	0
前期末前受金*	0
前期末未収入金収入	0
期末未収入金*	0
収入計	0
支出	
前払金支払支出	0
前期末前払金*	0
前期末未払金支払支出	100,000
期末未払金*	0
支出計	100,000
調整勘定計	△ 100,000

・「教育活動」: キャッシュベースで本業の教育活動の収支状況を把握できます。通常は「+」となります。
 ・「施設整備等活動」: 当年度に施設設備の購入または売却その他これらに類する活動があったか、財源は何かを把握できます。教育活動のプラス分を施設整備にまわすため、通常は「-」となります。
 ・「その他の活動」: 借入金の収支、資産運用の状況、収益事業にかかる活動等、主に財務活動を把握できます。教育や施設の資金を特定資産の取崩しや借入金で調達していれば「+」、逆に特定資産への繰入れが多いなどの場合は「-」となります。
 上表の「*」の科目が13ページの資金収支計算書(学園総括)の「資金収入(支出)調整勘定」となります。

《用語の説明》

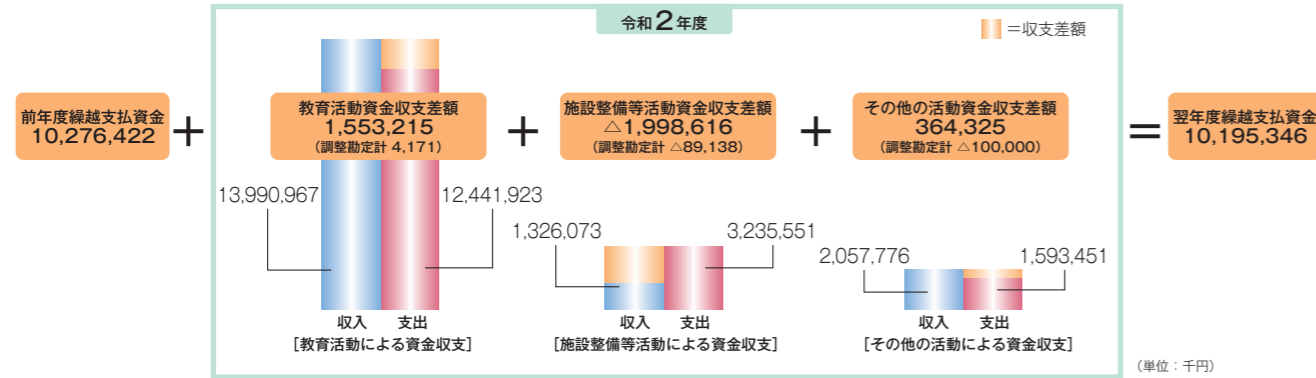
- 資金収支** 1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の順末を表すものです。
- 活動区分資金収支** 資金収支のうち、施設設備の取替更新やさらなる取得を「施設整備等活動」として取り出し、また財務活動や収益事業さらには預り金の受払い等の経過的な活動を「その他の活動」として取り出し、それ以外のものを「教育活動」として、3つの活動に分けて表すものです。
- 事業活動収支** 企業会計の損益計算の仕組みを引用し、負債にならない収入(事業収入)と費用(事業支出)の内容と均衡の状態を明らかにするものです。この収支は、経常的な収支のうち、財務活動(資金調達・運用)及び収益事業にかかる活動による「教育活動外収支」また特殊要因によって一時的に発生した臨時的な活動(例: 過年度修正額、資産売却差額、資産処分差額、災害損失、さらには施設設備にかかる寄付金・補助金・現物寄付)による「特別収支」そしてそれ以外の「教育活動収支」に分けて、収支の均衡を表示します。
- 事業活動収入** 資金収支計算書の収入の部の「学生生徒等納付金収入」「手数料収入」「寄付金収入」「補助金収入」「付随事業収入」「受取利息・配当金収入」「雑収入」「その他の特別収入(施設設備にかかる寄付金・補助金)」に現物寄付等を加えたもので、負債とならない正味の収入をいいます(外部からの借入金のように学校法人の負債となる収入は含みません)。
- 事業活動支出** 資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、事業活動支出科目の退職給与引当金繰入額・退職金を加える)」「教育研究経費支出」「管理経費支出(減価償却額を加える)」「借入金等利息支出」、さらに事業活動支出のみの項目である「資産処分差額」「徴収不能額等」を加えたものです。
- 基本金組入前当年度収支差額** 事業活動収入と事業活動支出との差です。毎期の収支バランスをみるとともに、基本金組入れ余力を表示します。

II 財務の概要

なお資金収支を3つの活動区分に分けた「活動区分資金収支計算書」では、今年度も「施設整備等活動」において、再投資資金である償却引当特定資産の積増もあり、支出超過となりました。また「その他の活動」である受取利息・配当金収入は、例年通

り理事長・学長・校長から提案された「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等への財源として、主に「教育活動」として支出しました。（活動区分資金収支計算書は14ページに掲載しています。）

繰越支払資金の流れ



事業活動収支決算の概要

学園全体の事業活動収入は145億56百万円、事業活動支出は145億51百万円となり、差額である基本金組入前当年度収支差額は5百万円の収入超過となりました。また基本金組入額は施設・設備関係支出を10億78百万円計上したものの、前年度繰延額、不要図書や近年実施した図書の棚卸処理を踏まえて除却額を計上したために、3億35百万円となり、基本金組入後の当年度収支差額は支出超過となりました。令和元年度に繰延額が減少し、本年度は基本金組入額が増額すると見込みましたが、微増にとどまりました。

予算と比較しますと、事業活動収入(予算は141億23百万円)は4億33百万円上回りました。これは資金収支の箇所でも説明した事項に加え、科学研究費補助金で購入した機器を現物寄贈として計上したことによります。他方、事業活動支出(予算は144億42百万円)は会計処理による奨学費支出の増額に加え、決算にて計上することとしている資産処分差額で上振れましたが、年度途中での退職者の発生や代替職員の委託業務化などに

よる教職員人件費の減額、コロナ禍で事業を見合わせたことによる経費の減額、95百万円の予備費の残額もあり、1億09百万円の増額に留まりました。

次に前年度決算と比較しますと、収入は補助金により1億05百万円、支出は教育研究経費により4億40百万円の、それぞれ増額となりました。入学者数の抑制を反映した学生生徒等納付金の減少は少人数教育が進展しているとも言えますが、志願者数の減少による手数料、学園創立100周年募金の終了(2020年9月)による寄付金の減額は、次年度以降に改善したい課題です。支出面では新型コロナウイルス感染症への対応として、オンライン学習環境の整備や家計急変家庭への奨学金・授業料減免による奨学費が増額しました。なお基本金組入額は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大を受けて留学の派遣・受入れを見合わせたため、留学にかかる奨学金を支給できず、未執行分は元本に組入れたこともあり、1億13百万円の組入れ増となりました。令和3年度からはオンライン留学が始動します。組入れた資金は留学促進に活用します。

《科目の説明》

- 1. 学生生徒等納付金**
授業料、入学金、施設設備資金、施設維持費、教育充実費、実験実習費等
- 2. 手数料**
入学検定料、証明書手数料等
- 3. 寄付金**
教育振興募金、100周年記念事業募金、遺贈募金、企業様からの研究助成等
- 4. 補助金**
経常費補助金、研究装置、設備、施設整備費等補助金等
* 研究設備や装置等の設備及び施設に対する寄付金と補助金は、事業活動収支決算書では特別収支の「その他の特別収入」に計上されます。
- 5. 受取利息・配当金**
特定資産を含む金銭面の資産運用による収入
- 6. 資産売却差額**
固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却・廃棄、有価証券の処分の際の差額(簿価を上回った金額)
- 7. 付随事業・収益事業収入**
補助活動や受託事業、収益事業にかかる収入等
- 8. 雑収入**
退職金財団からの交付金収入、研究費の間接経費分の収入、施設設備の貸出しによる収入等

- 9. 人件費**
教員・職員に支給する本俸・期末手当・その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給付引当金繰入額、退職金
- 10. 教育研究経費**
教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- 11. 管理経費**
教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- 12. 資産処分差額**
固定資産(建物・構築物・備品・図書等)の除却・廃棄、有価証券の処分の際の差額(簿価を下回った金額)
- 13. 徴収不能額等**
奨学金回収不能額を見積る引当金計上額、徴収が不能または徴収を免除した徴収不能額
- 14. 基本金組入額**
校地・校舎・機器備品・図書等の充実・拡充のために取得した固定資産の充実に要した額及び教育研究基金等への組入額
(基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等を取得した金額(第1号基本金)、校地・校舎等を取得するために年次的・段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)及び恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額(第4号基本金)の確保のために、充てられる金額です。)

事業活動収支決算書・構成比率(学園総括)

科目	(単位：千円)		(比率：%)	
	予算	決算	差異	比率
教育活動収入				
学生生徒等納付金	11,061,390	11,084,181	△22,791	76.2%
手数料	617,530	470,885	146,645	3.2%
寄付金	159,832	180,114	△20,282	1.2%
経常費等補助金	1,282,807	1,704,251	△421,444	11.7%
付随事業収入	124,400	128,993	△4,593	0.9%
雑収入	413,525	424,762	△11,237	2.9%
教育活動収入計	13,659,484	13,993,186	△333,702	96.1%
事業活動支出				
人件費	7,970,664	7,874,428	96,236	54.1%
教育研究経費	5,664,229	5,798,949	△134,720	39.8%
管理経費	712,327	605,474	106,853	4.2%
徴収不能額等	0	210	△210	0.0%
教育活動支出計	14,347,220	14,279,061	68,159	98.1%
教育活動収支差額	△687,736	△285,875	△401,861	

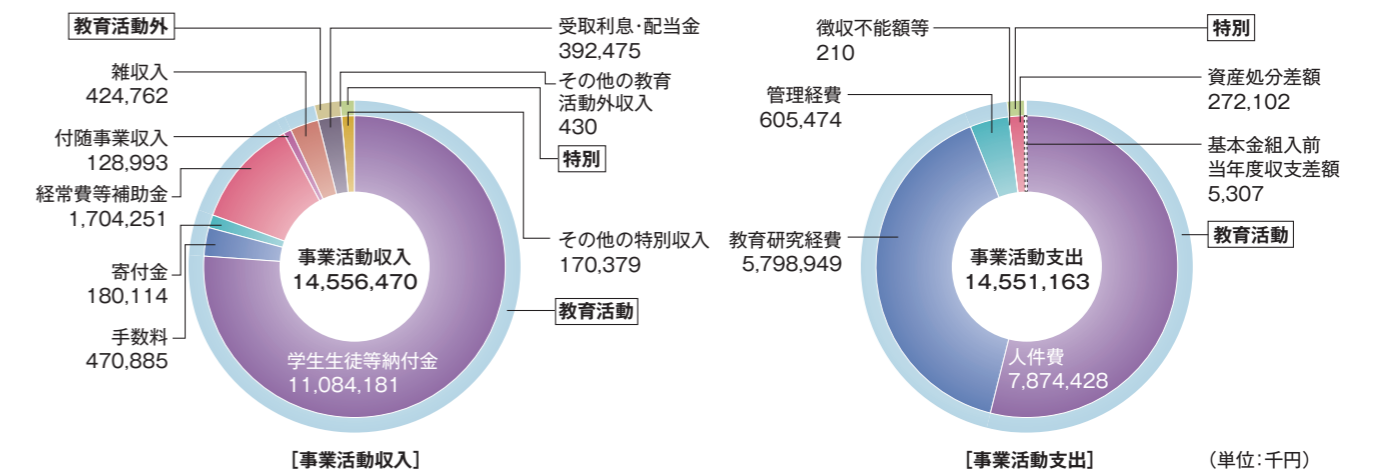
科目	予算	決算	差異	比率
教育活動外収入				
受取利息・配当金	247,500	392,475	△144,975	2.7%
その他の教育活動外収入	300	430	△130	0.0%
教育活動外収入計	247,800	392,905	△145,105	2.7%
教育活動外支出				
借入金等利息	0	0	0	0.0%
その他の教育活動外支出	0	0	0	0.0%
教育活動外支出計	0	0	0	0.0%
教育活動外収支差額	247,800	392,905	△145,105	
経常収支差額	△439,936	107,030	△546,966	

科目	予算	決算	差異	比率
特別収入				
資産売却差額	0	0	0	0.0%
その他の特別収入	215,968	170,379	45,589	1.2%
特別収入計	215,968	170,379	45,589	1.2%
特別支出				
資産処分差額	0	272,102	△272,102	1.9%
その他の特別支出	0	0	0	0.0%
特別支出計	0	272,102	△272,102	1.9%
特別収支差額	215,968	△101,723	317,691	

[予 備 費]	94,949		94,949	
基本金組入前当年度収支差額	△318,917	5,307	△324,224	
基本金組入額合計	△1,233,461	△335,213	△898,248	△2.3%
当年度収支差額	△1,552,378	△329,906	△1,222,472	
前年度繰越収支差額	△16,701,796	△16,701,796	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△18,254,174	△17,031,702	△1,222,472	

(参考)

事業活動収入計	14,123,252	14,556,470	△433,218	100.0%
事業活動支出計	14,442,169	14,551,163	△108,994	100.0%



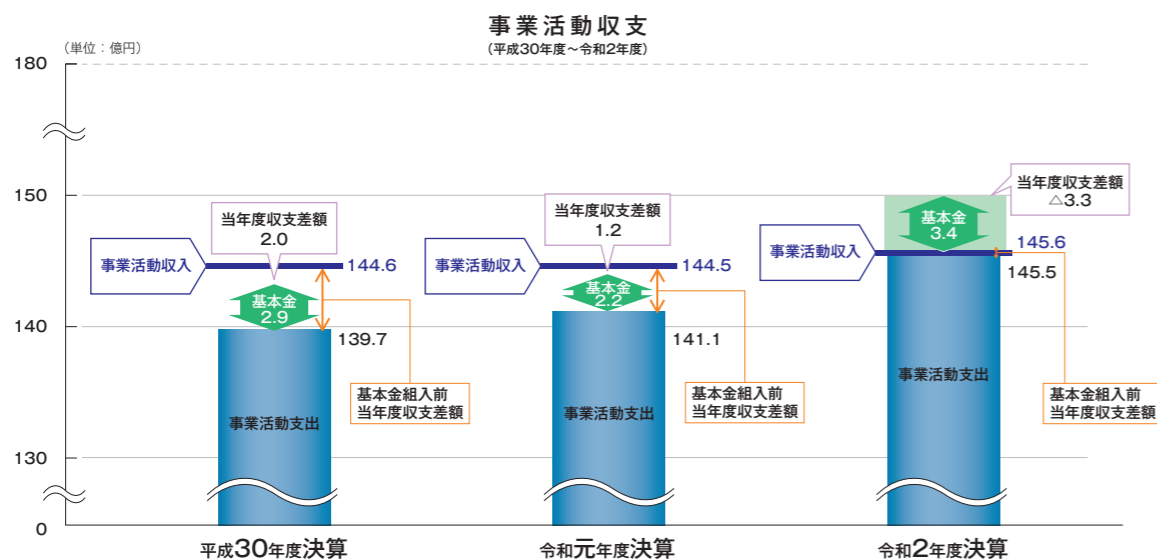
※表の構成比率及び円グラフは、事業活動収入計「決算」を100とした場合の、当該科目の比率及び円グラフとなっています。
 ・「その他の教育活動外収入」には、収益事業収入が計上されています。
 ・「その他の特別収入」には、施設設備の寄付金と補助金、現物寄付が計上されています。

II 財務の概要

I 事業活動収支決算の推移 (学園総括) 平成27年度から令和2年度まで (単位:千円)

科目	年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業活動収入		13,822,799	14,311,092	14,759,591	14,460,104	14,450,759	14,556,470
事業活動支出		13,523,535	13,622,500	13,718,286	13,970,847	14,110,570	14,551,163
基本金組入前当年度収支差額		299,264	688,592	1,041,305	489,257	340,189	5,307
基本金組入額		△ 2,703,176	△ 1,791,097	△ 4,226,794	△ 290,821	△ 221,660	△ 335,213
当年度収支差額		△ 2,403,912	△ 1,102,505	△ 3,185,489	198,436	118,529	△ 329,906
基本金取崩額		—	—	—	47,458	—	—
当年度収支差額累計		△ 12,778,225	△ 13,880,730	△ 17,066,219	△ 16,820,325	△ 16,701,796	△ 17,031,702

I 平成30年度～令和2年度決算の推移



主な施設・設備の整備状況(学園全体)

令和2年度に行った主な工事は以下のとおりです。

工事名称	対象施設	概要
空調改修工事	大学 岡本キャンパス2号館、8号館、18号館	老朽化した空調設備を更新。省エネ化を図るとともに快適な教育環境を実現。
照明LED化工事	大学 岡本キャンパス5号館、6号館、8号館	5号館4階5階ゼミ室、6号館各階共用部、8号館813講義室の照明のLED化を実施。省エネルギー及び快適な教育環境を実現。
ラーニングcommons整備工事	大学 岡本キャンパス7号館	7号館1階の学生ホールをサイエンスラーニングcommons(SaLaCo-East)に改修。
人工芝更新工事	大学 六甲アイランド北敷地ラグビー場兼サッカー場	老朽化していたラグビー場兼サッカー場の人工芝の張替えを実施。
点字ブロック設置工事	大学 岡本キャンパス各所	バリアフリーのため、キャンパス各所の階段、スロープに点字ブロックを設置し、安心、安全のキャンパスを実現。
天井改修工事	中高 小体育館・卓球場	天井落下防止対策として天井改修工事を実施。
プールサイド床材更新工事	中高 中高プール	老朽化したプールサイドの床材の張替えを実施。
空気清浄機設置工事	中高 中高校舎	新型コロナウイルス対策として、各教室に空気清浄機を設置。
ブロック塀撤去・再整備工事	大学・中高 岡本キャンパス、中高大グラウンド、小グラウンド	3年計画の3年目の工事が完了。岡本キャンパス学友北館東側、古川住宅、庄屋住宅、西岡本においてブロック塀をフェンスに再整備。
網戸設置工事	大学・中高 岡本キャンパス、中高校舎	新型コロナウイルス対策として、換気ができるよう講義室、教室に網戸を設置。

I 貸借対照表(令和3年3月31日) (単位:千円)

資産の部			負債の部				
科目	令和2年度末	令和元年度末	増減	科目	令和2年度末	令和元年度末	増減
固定資産	80,442,365	80,524,156	△ 81,791	固定負債	4,464,402	4,540,563	△ 76,161
有形固定資産	58,409,836	59,343,953	△ 934,117	長期借入金	0	0	0
土地	22,441,976	22,441,976	0	長期未払金	20,710	62,130	△ 41,420
建物	27,445,173	28,344,213	△ 899,040	退職給与引当金	4,443,692	4,478,433	△ 34,741
構築物	1,530,237	1,466,706	63,531	流動負債	2,849,361	2,815,926	33,435
教育研究用機器備品	1,539,470	1,610,338	△ 70,868	短期借入金	0	0	0
管理用機器備品	22,664	26,013	△ 3,349	未払金	568,972	624,712	△ 55,740
図書	5,428,226	5,452,063	△ 23,837	前受金	1,930,512	1,893,943	36,569
車輜	935	2,644	△ 1,709	預り金	349,877	297,271	52,606
建設仮勘定	1,155	0	1,155	負債の部合計	7,313,763	7,356,489	△ 42,726
特定資産	21,731,236	20,832,088	899,148				
第2号基本金引当特定資産	115,457	115,457	0	大学施設設備充実資金	115,457	(令和2年度末)	
第3号基本金引当特定資産	5,125,198	5,111,211	13,987	奨学助成基金	1,772,184		
退職給与引当特定資産	2,221,846	2,239,217	△ 17,371	国際教育研究交流基金	1,398,202		
償却引当特定資産	8,346,279	7,474,758	871,521	八木慎二「わがみちをすすめ」奨学基金	652,442		
理系学部設備充実費引当特定資産	180,057	174,874	5,183	教育・研究助成(中高)基金	489,402		
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産	2,188,496	2,278,020	△ 89,524	他	(令和2年度末)		
大学将来計画準備引当特定資産	974,823	974,823	0				
平生太郎基金引当特定資産	2,320,437	2,205,285	115,152				
岡崎一雄基金引当特定資産	4,941	4,741	200				
八木慎二基金引当特定資産	180,268	180,268	0				
中高教育充実引当特定資産	73,434	73,434	0				
その他の固定資産	301,293	348,115	△ 46,822				
電話加入権	4,609	4,609	0				
施設利用権	3,456	4,628	△ 1,172				
ソフトウェア	22,224	28,618	△ 6,394				
長期貸付金	118,763	158,130	△ 39,367				
長期未収入金	0	0	0				
出資金	25,467	25,356	111				
敷金・保証金	126,774	126,774	0				
流動資産	10,762,652	10,718,280	44,372				
現金預金	10,195,346	10,276,422	△ 81,076				
未収入金	366,416	224,354	142,062				
前払金	198,548	216,234	△ 17,686				
仮払金	156	107	49				
立替金	2,186	1,163	1,023				
資産の部合計	91,205,017	91,242,436	△ 37,419				
				繰越収支差額	△ 17,031,702	△ 16,701,796	△ 329,906
				翌年度繰越収支差額	△ 17,031,702	△ 16,701,796	△ 329,906
				純資産の部合計	83,891,254	83,885,947	5,307
				負債及び純資産の部合計	91,205,017	91,242,436	△ 37,419

(注記)貸借対照表の補足説明

その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

○有価証券の時価情報(総括表)

(単位:千円)

種類	令和2年度(令和3年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの(うち満期保有目的の債券)	6,387,251 (1,900,000)	9,768,954 (1,957,829)	3,381,703 (57,829)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの(うち満期保有目的の債券)	3,390,584 (1,000,000)	3,198,470 (965,880)	△ 192,114 (△ 34,120)
合計(うち満期保有目的の債券)	9,777,835 (2,900,000)	12,967,424 (2,923,709)	3,189,589 (23,709)
時価のない有価証券	8,000		
有価証券合計	9,785,835		

II 財務の概要

財務状況の推移(学園総括) 平成27年度から令和2年度まで

(単位:千円)

科目	年度	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度末	令和2年度末
総資産		88,767,591	89,111,390	90,421,004	90,726,181	91,242,436	91,205,017
固定資産		78,854,695	79,003,218	79,898,895	80,283,430	80,524,156	80,442,365
有形固定資産		57,907,450	58,810,260	60,994,744	60,286,875	59,343,953	58,409,836
特定資産		20,018,230	19,719,139	18,487,470	19,629,984	20,832,088	21,731,236
その他の固定資産		929,015	473,819	416,681	366,571	348,115	301,293
流動資産		9,912,896	10,108,172	10,522,109	10,442,751	10,718,280	10,762,652
総負債		7,440,987	7,096,194	7,364,503	7,180,423	7,356,489	7,313,763
固定負債		4,584,451	4,549,490	4,527,761	4,620,386	4,540,563	4,464,402
流動負債		2,856,536	2,546,704	2,836,742	2,560,037	2,815,926	2,849,361
(うち、借入金)		0	0	0	0	0	0
基本金		94,104,829	95,895,926	100,122,720	100,366,083	100,587,743	100,922,956
繰越収支差額		△ 12,778,225	△ 13,880,730	△ 17,066,219	△ 16,820,325	△ 16,701,796	△ 17,031,702
正味財産		81,326,604	82,015,196	83,056,501	83,545,758	83,885,947	83,891,254

財務比率の推移(学園総括) 平成27年度から令和2年度まで

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	88.8	88.7	88.4	88.5	88.3	88.2
	固定比率	固定資産 / 純資産	(87.2)	(87.3)	(87.3)	(87.3)	(87.3)	(87.3)
	固定長期適合率	固定資産 / 純資産 + 固定負債	91.8	91.3	91.2	91.1	91.1	91.0
	流動比率	流動資産 / 流動負債	347.0	396.9	370.9	407.9	380.6	377.7
	流動負債構成比率	流動負債 / 総負債 + 純資産	3.2	2.9	3.1	2.8	3.1	3.1
	総負債比率	総負債 / 総資産	(5.3)	(5.3)	(5.3)	(5.2)	(5.1)	(5.1)
	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産) / 退職給与引当金	8.4	8.0	8.1	7.9	8.1	8.0
	償却引当預金率	償却引当特定預金(資産) / 償却引当金	(13.0)	(12.8)	(12.6)	(12.5)	(12.4)	(12.4)
				50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
				(67.7)	(68.5)	(69.0)	(70.6)	(72.6)
			24.3	23.1	16.5	18.8	21.2	22.9
			(17.9)	(17.4)	(17.8)	(17.7)	(17.2)	

(単位:%)

	比率名	算式(×100)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
事業活動収支関係	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	80.4	80.0	76.5	79.8	79.3	77.0	
	寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	(75.9)	(75.0)	(76.0)	(75.9)	(76.0)	(76.0)	
	経常寄付金比率	教育活動収入の寄付金 / 経常収入	1.9	4.6	8.1	3.0	3.0	1.9	
	補助金比率	補助金 / 事業活動収入	(1.9)	(3.9)	(1.7)	(2.3)	(2.2)	(2.2)	
	経常補助金比率	教育活動収入の補助金 / 経常収入	0.8	1.6	5.3	1.1	1.2	1.3	
	人件費比率	人件費 / 経常収入	(1.2)	(2.7)	(1.3)	(1.3)	(1.4)	(1.4)	
	人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	11.6	11.9	8.4	8.0	9.6	12.2	
	教育研究経費比率	教育活動収入の補助金 / 経常収入	8.9	9.3	8.6	8.0	9.6	11.8	
	管理経費比率	管理経費 / 経常収入	(11.5)	(11.3)	(11.4)	(11.7)	(11.6)	(11.6)	
	事業活動支出比率	事業活動支出 / 事業活動収入	58.7	56.8	54.1	55.8	55.7	54.7	
	基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	(53.3)	(52.9)	(53.4)	(52.9)	(52.9)	(52.9)	
				73.1	70.9	70.6	69.9	70.2	71.0
				(70.3)	(70.5)	(70.2)	(69.8)	(69.7)	(69.7)
				37.2	36.9	35.7	37.4	36.7	40.3
			(34.4)	(33.4)	(34.1)	(34.4)	(34.5)	(34.5)	
			4.6	4.8	4.6	5.2	5.3	4.2	
			(7.6)	(7.6)	(7.4)	(7.6)	(7.8)	(7.8)	
			97.8	95.2	92.9	96.6	97.6	100.0	
			(94.0)	(93.2)	(94.2)	(95.2)	(94.4)	(94.4)	
			19.6	12.5	28.6	2.0	1.5	2.3	
			(10.9)	(12.1)	(10.1)	(10.0)	(10.5)	(10.5)	

(注)・()内は全国理工他複数学部法人平均。
 ・「固定資産」=有形固定資産+特定資産+その他の固定資産。
 ・「純資産」=「自己資金」。「自己資金」は基本金+繰越収支差額となります。
 ・「経常収入」=教育活動収入+教育活動外収入。



Ⅲ 法人の概要

名称	学校法人甲南学園		
法人設立の年月日	大正7(1918)年12月20日		
設置学校	甲南大学・大学院		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20
	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

Ⅰ役員(令和3年3月31日現在)

理事 ※1	定数19～28名 現員27名			
長坂悦敬 (理事長)	村津敬介 (常任理事)	衣斐茂樹	荒屋ひとみ	
中井伊都子 (常任理事 甲南大学長)	渡辺顕修 (監事 甲南大学大学院長)	奥田兼三	大垣利哉	
山内守明 (常任理事 甲南高等学校・中学校長)		小倉宏之	佐伯孝平	
西欣也 (甲南大学文学部長)		片山勉 (学内)	清水弓彦	
秋宗秀俊 (甲南大学理工学部長)	監事 ※2	佐藤茂	湯浅弘	
岡田元浩 (甲南大学経済学部長)	定数2～3名 現員2名	白石朋康	岩端正尚	
前田忠弘 (甲南大学法学部長)	植村武雄	杉山洋一	永野育子	
三上和彦 (甲南大学経営学部長)	牧美喜男	立野純三	安西敏三	
市川典男		道満善弘	市川典男	
片山勉 (副理事長 常任理事)	評議員 ※3	松井佐一郎	岩田憲明	
佐藤治正 (監事 甲南大学副学長)	定数40～59名 現員56名	丸谷昭博	上島一泰	
佐藤泰弘 (常任理事 甲南大学副学長)		葉袋真人 (学内)	佐々木良太郎	
村嶋貴之 (常任理事 甲南大学副学長)	井野瀬久美恵 (学内)	和田直哉	佐藤治正 (学内)	
葉袋真人 (常勤)	桑岡和久 (学内)	稲垣嗣夫 (学内)	佐藤泰弘 (学内)	
山田純嗣	寺尾建 (学内)	長坂悦敬 (学内)	細谷俊雄	
伊藤勲	濱谷和生 (学内)	平生誠三	村嶋貴之 (学内)	
稲垣嗣夫 (常任理事)	松本茂樹 (学内)	平野欽一郎 (学内)	山下英久	
小西新右衛門	石野牧生 (学内)	渡辺顕修 (学内)	山田純嗣	
杉本直己 (甲南大学先端生命工学研究所長)	河口浩 (学内)	中井伊都子 (学内)		
角和夫	谷向豊 (学内)	山内守明 (学内)		
中内仁	狭間宏明 (学内)	西欣也 (学内)		
野澤太郎 (常任理事)	林正樹 (学内)	秋宗秀俊 (学内)		
平生誠三	足立恵英 (学内)	岡田元浩 (学内)		
平野欽一郎 (専務理事)	角典久 (学内)	前田忠弘 (学内)		
水越浩士	赤田真朗	三上和彦 (学内)		

※1 学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めています。

※2 監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査すること等が主たる職務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることその職務とされています。監事は、評議員会の同意を得て理事長が選任します。また、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

※3 評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員会から意見を聞かなければならないこととされています。

Ⅰ土地と建物(令和3年3月31日現在)

土地面積		建物面積	
大学	195,074.45㎡	大学	145,442.22㎡
高中	45,791.00㎡	高中	18,944.16㎡
その他(職員住宅等)	7,026.00㎡	その他(職員住宅等)	3,646.65㎡
土地面積総合計	247,891.45㎡	建物面積総合計	168,033.03㎡

大学・大学院・高等学校・中学校基本データ

Ⅰ学位授与 学士

学部	学士(分野)		学科	
文学部	学士(文学)	337名	日本語日本文学科	71名
	学士(社会学)	108名	英語英米文学科	100名
理工学部	学士(工学)	70名	社会学科	108名
			人間科学科	108名
			歴史文化学科	58名
			物理学科	51名
経済学部	学士(経済学)	380名	生物学科	47名
	学士(法学)	392名	機能分子化学科	58名
法学部	学士(法学)	392名	経済学科	380名
	学士(経営学)	379名	法学科	392名
経営学部	学士(経営学)	379名	経営学科	379名
	学士(工学)	110名	知能情報学科	122名
知能情報学部	学士(情報学)	7名		
	学士(理学)	5名		
マネジメント創造学部	学士(マネジメント)	188名	マネジメント創造学科	188名
フロンティアサイエンス学部	学士(理工学)	39名	生命化学科	39名

修士

研究科	修士(分野)		専攻	
人文科学研究科	修士(文学)	3名	英語英米文学専攻	2名
	修士(社会学)	3名	応用社会学専攻	3名
自然科学研究科	修士(理学)	32名	人間科学専攻	1名
			物理学専攻	12名
			化学専攻	10名
			生物学専攻	9名
社会科学研究科	修士(経済学)	4名	知能情報学専攻	9名
			修士(工学)	7名
			修士(情報学)	1名
フロンティアサイエンス研究科	修士(経済学)	4名	経済学専攻	4名
	修士(経営学)	3名	経営学専攻	3名
	修士(理工学)	7名	生命化学専攻	7名

博士

研究科	博士(分野)		専攻	
自然科学研究科	博士(理学)	1名	生命・機能科学専攻	1名
フロンティアサイエンス研究科	博士(理工学)	2名*	生命化学専攻	2名*
			*1名は論文博士	

専門職

研究科	博士(分野)		専攻	
法学研究科	法務博士(専門職)	14名	法務専攻	14名

Ⅰ留学者数

主な国際交流・留学支援プログラム		派遣人数	受入人数
中長期留学プログラム	交換留学	1年 1年 半年	0 0 0
	語学プラス交換留学(語学+専門科目)		0
	奨励留学*		4
	認定校留学		2
	マネジメント創造学部派遣留学(特別留学コース)		0
	マネジメント創造学部派遣留学(マネジメントコース)		0
	甲南大学Year-in-Japanプログラム**2(オンラインプログラム)		—
	小計		6
	私費外国人留学生・研究生		—
	小計		17
その他	海外インターンシップ・海外企業訪問(マネジメント創造学部)		0
	海外フィールドワーク・海外ボランティア(マネジメント創造学部)		0
	エリアスタディーズ(短期留学体験型プログラム)**3(オンラインプログラム)		22
	海外ボランティア		0
	日本語教授法実習		0
	海外語学講座		0
	夏期日本語集中講座		—
	協定校プログラム		—
	小計		22
	合計		28
		29	

高等学校・中学校

主な留学派遣・受入先		派遣	受入
交換留学	イギリス	0	0
	オーストラリア	0	0
	アメリカ(ハワイ)	0	0
	ニュージーランド	0	0
	カナダ	0	—
グローバル・スタディ・プログラム	アメリカ	0	—
	オーストラリア	0	—
	イギリス	0	—
	ニュージーランド	0	—
	オーストラリア	0	—
グローバル・ファウンデーション英語研修	オーストラリア	0	—
NASA・FITサイエンスツアー	アメリカ	0	—
グローバル・スタディ・ツアー	タイ	0	—

※新型コロナウイルス感染症の影響により派遣・受入ともに実施できなかった。
※高校2年生グローバルスタディプログラム生のうち、希望者16名が「国内留学特別プログラム・対面セミナー」を受講。

※1 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、途中帰国。帰国後オンラインにて継続して現地授業を履修した学生数。

※2 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、来日によるプログラムは中止したため、オンラインによる日本語プレセッション(11月～12月実施)の参加者数(8名)、オンラインホームステイプログラム(3月実施)の参加者数(9名)

※3 新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、渡航プログラムは中止したため、春に実施したオンラインプログラム(アイルランドコース、ハワイコース)の参加者数。

Ⅲ 法人の概要

I 入学試験状況

大学

学部・学科	一般選抜入試			共通テスト利用入試			その他の入試			
	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	
文学部	日本語日本文学科	501	491	153	266	265	59	79	79	35
	英語英米文学科	421	416	135	223	221	80	95	94	58
	社会学科	461	447	168	331	327	92	107	107	57
	人間科学科	644	627	187	349	344	81	95	95	45
	歴史文化学科	399	392	125	322	320	96	62	62	33
	小計	2,426	2,373	768	1,491	1,477	408	438	437	228
理工学部	物理学科	423	410	206	173	170	72	36	36	22
	生物学科	330	326	169	139	137	63	42	42	23
	機能分子化学科	375	370	251	143	141	94	22	21	15
	小計	1,128	1,106	626	455	448	229	100	99	60
経済学部	1,804	1,755	439	921	903	302	321	319	240	
法学部	1,319	1,293	458	820	810	360	334	332	223	
経営学部	1,487	1,458	457	873	864	247	591	583	243	
知能情報学部	688	676	267	460	454	107	115	109	63	
マネジメント創造学部	448	442	220	167	161	69	266	263	117	
フロンティアサイエンス学部	182	174	80	154	147	126	53	50	28	
合計	9,482	9,277	3,315	5,341	5,264	1,848	2,218	2,192	1,202	

大学院(修士課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	3	3	3
	応用社会学専攻	8	8	3
	人間科学専攻	3	1	1
	小計	14	12	7
自然科学	物理学専攻	9	6	4
	化学専攻	13	12	10
	生物学専攻	6	6	6
	知能情報学専攻	8	8	7
	小計	36	32	27
社会科学	経済学専攻	4	4	3
	経営学専攻	5	5	3
	小計	9	9	6
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	27	25	21
合計		86	78	61

大学院(博士後期課程)

課程	研究科・専攻	志願者数	受験者数	合格者数
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0
	英語英米文学専攻	0	0	0
	応用社会学専攻	1	1	1
	人間科学専攻	0	0	0
	小計	1	1	1
自然科学	物理学専攻	2	2	1
	生命・機能科学専攻	3	3	3
	知能情報学専攻	0	0	0
	小計	5	5	4
社会科学	経営学専攻	4	3	3
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	1	1	1
合計		11	10	9

高等学校

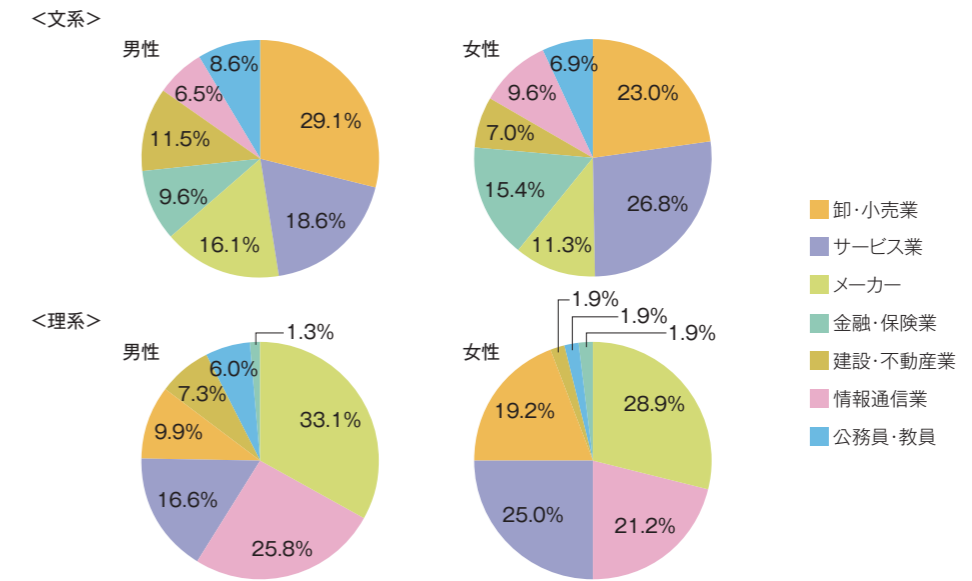
募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
アドバンスト・コース	26	26	22	22	1.18
一般・推薦入試併願(上記に含む)	(1)	(1)	(0)	(0)	

中学校

募集形態	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期午前入試	144	138	101	87	1.37
I期午後入試	235	230	137	35	1.68
II期入試	257	112	75	33	1.49
III期入試	176	71	37	14	1.92
甲南小学校	20	20	20	19	—
合計	832	571	370	188	—

I 大学(学部学生)の就職状況

業種別



規模別

従業員数	文系			理系			全体		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
3,000名以上	30.4%	28.7%	29.6%	32.1%	22.9%	29.8%	30.8%	28.3%	29.6%
1,000名以上	24.4%	20.9%	22.6%	18.6%	20.8%	19.1%	23.3%	20.9%	22.2%
500名以上	13.3%	18.1%	15.7%	16.4%	12.5%	15.4%	13.9%	17.7%	15.7%
500名未満	31.9%	32.3%	32.1%	32.9%	43.8%	35.6%	32.1%	33.1%	32.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

主な就職先

就職先	就職先	就職先
株式会社三井住友銀行	山崎製パン株式会社	近畿農政局
野村證券株式会社	株式会社ファンケル	高知労働局
日本生命保険相互会社	タカラトミーグループ	神戸市役所
三井住友海上火災保険株式会社	小林製菓株式会社	大阪高等裁判所
株式会社池田泉州銀行	大王製紙株式会社	大阪府庁
株式会社ニトリ	大塚製菓株式会社	兵庫県警察本部
三菱食品株式会社	三菱電機株式会社	兵庫県庁
稲畑産業株式会社	積水ハウス株式会社	防衛省
株式会社日本アクセス	株式会社竹中工務店	近畿地方整備局
株式会社阪急阪神百貨店	株式会社大林組	中国地方整備局
アイリスオーヤマ株式会社	株式会社NTTドコモ	神戸税関
関西電力株式会社	株式会社サイバーエージェント	大阪国税局
伊藤ハム株式会社	楽天株式会社	大阪出入国在留管理局
ネスレ日本株式会社	東海旅客鉄道株式会社	
グローリー株式会社	日本年金機構	

Ⅲ 法人の概要

Ⅰ学生・生徒数(令和2年5月1日現在)

大学

学部	入学定員	収容定員	実員
文学部	405	1,620	1,783
理工学部	155	620	679
経済学部	345	1,380	1,580
法学部	345	1,380	1,587
経営学部	345	1,380	1,595
知能情報学部	120	480	524
マネジメント創造学部	180	720	770
フロンティアサイエンス学部	45	180	175
合計	1,940	7,760	8,693

高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員
高等学校	200	600	578
中学校	175	525	534

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員
人文科学研究科	修士	26	52	13	博士後期	10	30	12
自然科学研究科	修士	35	70	68	博士後期	8	24	8
社会科学研究科	修士	20	40	14	博士後期	3	9	9
フロンティアサイエンス研究科	修士	10	20	19	博士後期	1	3	7
合計		91	182	114		22	66	36

専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員
法学研究科	20	60	46
合計	20	60	46

Ⅱ卒業生累計数(令和3年3月31日現在)

旧制中学校・旧制高等学校	1,889
新制高等学校	12,436

学部	108,926
大学院(修士)	2,665
大学院(博士)	167*
専門職大学院	643

*うち50件は論文博士

Ⅲ専任教職員数(令和2年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	創造マネジメント学部	フロンティアサイエンス学部	共通教育センター	国際言語文化センター	国際交流センター	教職教育センター	先端生命工 学 研 究 所	法科大学院	学長直 属	合 計
教授	41	26	18	20	20	11	9	9	14	8	0	1	1	5	0	183
准教授	7	8	3	6	1	8	7	4	4	6	0	0	3	0	0	57
講師	3	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	7
助教	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
特任等	3	1	4	1	3	0	6		5	6	3	0	0	0	2	34
小計	54	36	25	28	25	19	22	14	24	20	3	1	5	5	2	283

※実務家教員を含む。

高等学校・中学校

校長	教諭	契約	養護教諭	司書教諭	合計
1	50	6	1	1	59

職員

専任	嘱託	その他	合計
168	42	42	252

Ⅳ事務組織図(令和3年3月31日現在)

学 園	経営企画室		
	スポーツ強化支援室		
	総務部	総務課 人事課	
	財務部		
	管財部		
	情報システム室		
	広報部	広報課 甲友課	
	学園振興募金室		
	ネットワークキャンパス東京事務所		
	大 学	学長室	
		教務部	
		学生部	
		キャリアセンター	
		図書館事務室	
		アドミッションセンター	
法科大学院事務室			
文学部事務室			
理工学部・知能情報学部事務室			
経済・法・経営学部合同事務室			
西宮キャンパス事務室			
ポートアイランドキャンパス事務室			
全学教育推進機構事務室			
国際言語文化センター事務室			
国際交流センター事務室			
教職教育センター事務室			
公認心理師養成センター事務室			
カウンセリングセンター・人間科学研究所事務室			
フロンティア研究推進機構事務室			
地域連携センター事務室			
高等学校・中学校	高等学校・中学校事務室		
監査部			